

一般社団法人  
建設コンサルタンツ協会 東北支部

# JCCA TOHOKU

明日への風、  
東北から



vol. **55**  
支部だより 2017.4

目 次

Vol.55

- 巻頭言「河川、あれこれ」  
……………建設コンサルタンツ協会 東北支部 副支部長 村上 和夫 1
- 海外紀行「台湾視察旅行報告」 ……………東邦技術(株) 石塚 三雄 2
- 技術シリーズ「気仙沼大島大橋の架橋事業」……………大日本コンサルタント(株) 向田 昇 6
- 女性技術者が思う建設コンサルタント  
「女性技術者の声」……………八千代エンジニアリング(株) 反町 悠子 8  
「地元で生きる若手技術者として」 ……………三協コンサルタント(株) 酒井里佳子 9
- 「若手の会の紹介」……………(株)復建技術コンサルタント 山本 佳和 11
- 私の趣味……………(株)ドーコン 三浦 良信 13
- 土木施設紹介「最上川舟運の歴史の町と最上橋」……………(株)長大 荒木 孝広 15
- 現場見学会  
「河川・環境現場見学会に参加して」  
……………(株)福山コンサルタント 金野 絢香 16  
……………三井共同建設コンサルタント(株) 小田川 舞 17  
「構造・道路専門委員会合同見学会に参加して」  
……………(株)エイト日本技術開発 郡山 義章 18  
……………新日本技研(株) 西田 尚人 19
- 会員の紹介「福島の復興とともに」 ……………(株)新和調査設計 飯澤 久 20
- 支部活動報告  
平成28年度 意見交換会について…………… 21  
東北土木技術人材育成協議会調印式…………… 23
- 平成28年度 RCCM資格試験…………… 24
- 平成28年度 RCCM登録更新講習会…………… 25
- 特別特集  
「風化させない・忘れない」シンポジウム……………国土交通省東北地方整備局  
(一社)建設コンサルタンツ協会東北支部外5団体 26
- 特集「講演会報告」…………… 28
- 支部だより…………… 29
- 会員の動向…………… 34
- 東北支部 会員名簿…………… 36
- 編集後記…………… 広報委員 庄司 敏彦 38



## 河川、あれこれ

一般社団法人建設コンサルタンツ協会 東北支部 副支部長 村上 和夫

河川に関わる仕事を40年以上やってきた。洪水、濁水、地震、津波など、おおよそ河川に関連する災害のほとんどを経験して来たと言える。そういった「河川生活(?)」中で、印象に残っている2、3の事柄を記してみたい。

### ・感謝される堤防

河川の仕事に関わった最初の年(就職1年目)に最上川の支川の河床材料調査に出かけた。作業が終わって堤防に立っていると、住民と思われる老婆が歩み寄って来て、「いやー、この堤防を造ってもらってから水に浸かることが無くなった。堤防には本当に感謝している」と声を掛けられた。人に感謝される仕事、まだ若かったがなんとなく「うれしい気分」であった。

### ・リヤカーで流量観測

荒川下流部の仕事を5年ほど担当した。昭和49年9月に大きな洪水(多摩川決壊)があり、当時は直営で流量観測をやる時代だった。若手6人ほどでチームを作り、リヤカーに浮子などの観測器具を積んで、15分ほど歩き、基準点で浮子観測を一昼夜実施した。夜間は浮子が見えないため、カーバイトが発光する表面浮子先端につけて投下したが、あの独特の匂いは今でも忘れることができない。高水観測をやったのは後にも先にもこれ1回きりである。時代は、直営から委託への流れが本格化してきていた。

### ・破堤の第一報を受信

昭和56年8月、洪水対策本部に詰めていた。深夜2時頃利根川取手地点で最高水位に達し、ようやく下がりはじめた。対策本部にも安堵感が漂い、飲料水を口

にする人、囲碁をやりだした人などもいた。その時、私の傍の電話が鳴った。「小貝川が決壊しました」、事務所からの速報だった。私は席から立ち上がって大声で怒鳴ったと思う、「小貝川が決壊」。それから数時間自分が何をしたのか、記憶がほとんどない。

### ・河川管理施設構造令

ある河川の激特事業を担当していた。パラペットの特殊堤を構造令の原則に基づき、土堤のバック堤で計画したため、大規模な家屋移転が必要となった。事業説明会の時、ある商店主が質問した。「土堤原則というが、隅田川も土堤か、日本の河川全部土堤か、これだけ移転が出る計画はおかしい」。技術基準と地域住民の思いが噛み合えば最善だが、そうは簡単に行かないのも現実である。

### ・天の助け?

東日本大震災後3日目あたりである。電話が鳴り、被災事務所の幹部が私に言った。「予備発のA重油がなくなる、何とかして欲しい」。重油を手配できるノウハウが私にある訳が無い。だが、偶然か、その時政府調達給油が動き始めており、翌日A重油は届いた。被災事務所の予備発が切れたら、まさに「盲目=無力」となるところだった。この時は、本当に「天が助けてくれた」と思った。悲惨極まりない災害であったが、助けもあった。

建設コンサルタントを取り巻く状況は厳しいが、人に「感謝される仕事」に誇りを持ち、前向きに歩いて行きたいと思う。

## 台湾視察旅行報告

東邦技術株式会社 石塚三雄

### 1. はじめに

今回、宮城県土木部長より仙台空港国際線の利用促進要請があり、視察旅行を実施いたしました。

仙台空港には韓国・グアム・台湾・中国の国際線定期便が就航しておりますが、以前に同様の要請があった際グアムを選択しており、今回は台湾に決定しました。

支部協会会員各社より、下は2歳から上は60 + a歳まで20名が参加、期間は業務への影響を最小限にと考え、平日2日に土日を加えた3泊4日とし、去る平成28年12月8日から11日まで実施し、参加してまいりました。

### 2. 台湾について

台湾は日本の琉球諸島の西方海上に位置し、北部が亜熱帯、南部が熱帯に属しています。

仙台空港から3時間半、日本との時差も1時間と気軽に行けるため、日台間では毎年100万人以上の観光客の交流があります。

また、台湾は過去の日本統治時代から戦後、そして現在も一貫して親日の国です。

ガイドも日本の文化が好きで、独学で日本語を学びいまの仕事をしているとのこと。ただ、観光地のPOPや説明文はハングルも目立ち、観光客の多寡を実感しました。

湿度はそこそこありますが温暖で過ごしやすく、日中はシャツ一枚でも過ごせます。ダウン着用の日本に帰りたくなくなりました。

治安も良く、本人の名誉のためにあえて名前は伏せますが、到着早々桃園空港の為替カウンターに財布を置き忘れた参加者がいましたが、ちゃんと戻ってきました。(見つけてくれた岸さん、ありがとうございます！)

### 3. 台湾の土木と日本

台湾と言いますと白冷圳や宜蘭河なども頭に浮かびますが、なんといっても一番は八田與一と烏山頭ダムではないでしょうか。

フーバー・ダムが完成するまでは世界最大のダムで八田ダムの名でも知られます。

彼は現地の人々から「台湾人の恩人」とも呼ばれていますが、これには、事業の規模や流域農民への貢献など業績の素晴らしさに加え、土木作業員の労働環境改善に尽力したことや、自ら危険な現場に進んで足を踏み入れ、また事故の際は日本人も台湾人も分け隔てなく対応するなどした八田の人柄も大きく影響しているようです。

今回は冒頭でも触れたとおり、実質滞在2日間のタイトな日程の上、仙台空港からの便数に限りがあり、残念ながら上記エリアに足を運ぶことが叶いませんでした。

協会としては、視察と業務のバランスに配慮した結果でしたが、次の機会には検討の余地有ります。

### 4. 視察先の概要

#### ・行天宮

まず最初は行天宮。台北市内にある寺廟で、日本人にも人気の観光スポットではありますが、多くの熱心な信者の方々が真剣に参拝しています。

鼻歌まじりの気軽な気分が軽く吹き飛びました。

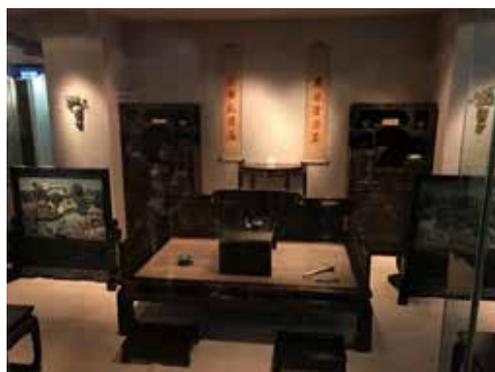
ただ、ガイドさんも多数いて、参拝のやり方など優しくレクチャーしてくれます。





### ・中正記念堂

最初、バスが到着したのが裏側だったのですが、それを知らず「大きくて立派な建物だな」と感心していましたが、正面にまわってみて本当の大きさに圧倒されました。ほかにも国家音楽庁や国家戯劇院などが有り、それぞれの建物も非常に大きいのですが、敷地が25ヘクタールもあるので、その大きな建物が小さく見えます。

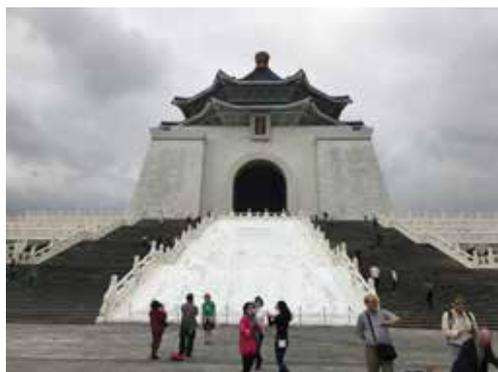


### ・忠烈祠

主に戦争で亡くなった英霊を祀る祠で、台湾政府の管理下にあります。

目玉は衛兵交代です。人物成績に加え身長や容姿も選りすぐりの兵士たちで、微動だにせず直立し、交代時には一糸乱れぬ動きを見せます。

今回同行した現地のガイドは、少佐まで務めた元職業軍人でしたが、あまりに大変なのでこれは絶対やりたくない、と申ししておりました。



### ・故宮博物館

世界4大博物館のひとつとも言われている国立故宮博物館。その収蔵品は清朝宮廷のコレクションが多く、翠玉白菜はじめ華麗な中華文明の殿堂です。今回は2時間半程度しか時間がとれず、駆け足の見学となったのは残念でした。





・士林夜市

夜市とは、その名の通り“夜に開かれる市場”です。士林夜市は台湾で最大級の夜市で、学生から家族連れまで多くの人で深夜まで賑わいます。台湾名物のフルーツや臭豆腐から、衣料品、玩具、射的など、さまざまなお店や屋台が並び、規模も大きく一晩ではとてもまわりきれません。



・九份

昔は金鉱の町として栄え、閉山後はさびれていましたが、トニー・レオン主演映画「悲情城市」の舞台として脚光を浴び、観光地として活気を取り戻しました。「千と千尋の神隠し」のモデルとなったお店もあり、日本人に人気のスポットです。眺めのいい茶芸館でお酒よりも高いお茶を飲んだり、あやしい黄金博物館でチープな砂金取りを体験したり、気ままにぶらぶらするのが楽しい町です。



・十份

台北市から車で一時間の小さな町です。

町の真ん中を線路が通っていて、両側にお土産や食べ物屋さん並んでいます。電車は1時間に1本で、普段は線路内に自由に立ち入りできますが、電車を通る際にはかなりストレス。

名物は天燈（ランタン）です。紙の熱気球に願い事を書いて揚げます。





・十份瀑布

十份の町からほど近い、台湾のナイアガラとも呼ばれている「十份瀑布」。規模については本家のナイアガラとは比ぶべくもないのですが、水量が豊富で美しい半円形の滝です。



5. 最後に

今年2月にも宮城県土木部長より、再度同様の要請がありました。

会員各社におかれましても、業務のみでなく、旅行や、社員の方々などのレジャーなどあらゆる機会をとらえまして、仙台空港の国際線の利用について、ご協力のほど宜しくお願い致します。

## 気仙沼大島大橋の架橋事業

大日本コンサルタント株式会社 向 田 昇

### 大島架橋事業

気仙沼大島は、宮城県北東部の三陸復興国立公園の海と山の自然に恵まれた気仙沼湾の離島です。

毎年4月に開催される「気仙沼つばきマラソン」では、島民2600人の5割に相当するランナーが全国から参加します。

大島への交通手段がフェリー等の船舶のみであることから、救急医療や災害時の緊急輸送路としての安全安心の確保、観光や地域産業、経済の振興を図るために、連絡橋の建設が強く求められて来ました。

大島は、2011年の東日本大震災の津波によって甚大な被害を受け、本土とのライフラインは絶たれ、亀山が山火事となって1週間後に鎮火するなど、20日間孤立状態となりました。

東日本大震災によって、「命の道」としての大島架橋の必要性が再認識され、一般県道大島浪板線は国道

45号に接続する東八幡前地区から大島浦の浜までの8kmが2011年に事業化されました。

### 橋梁形式と橋に求められる性能

当社は本土の三ノ浜から大島の磯草までの250mの海上に架かる橋梁の計画と設計を担当しました。橋梁形式は、航路高32mを確保すること、海上に橋脚を設けないことが条件となり、急峻な地形を生かした鋼中路アーチ橋を採用しました。



図-1 気仙沼大島大橋 完成イメージ図



図-2 気仙沼大島大橋 橋面完成イメージ図



写真-1 小々汐地区の工事状況 [遠方:大島]



写真-2 大浦地区の部分供用 [防災集団移転団地]

有識者による大島架橋設計検討委員会において、「台風や地震、津波などの自然災害に対して、緊急輸送路としての機能を満足し、100年を超える期間十分な強度をもって耐える橋梁」、「建設コストや維持管理コストを考慮したライフサイクルコストがミニマムとなる構造の選定と施策の構築を行う」ことを要求性能として設定し、災害に強く耐久性と維持管理に優れた橋梁の建設を目標としました。

### 維持管理と点検性に配慮した橋梁の設計

橋梁の設計は、構造的な経済性を考慮するのは勿論のこと、耐久性を長期的に確保し、橋梁の維持管理費用を抑え、容易に点検や調査が行える構造とするために、維持管理に関する要求性能を設計の初期段階で設定しました。

維持管理に関する具体的な設計項目を洗い出し、形式比較や断面決定といった設計の各段階で維持管理の評価を行うことで、最終形状が決定してから維持管理上の問題が発生することのないよう工夫しています。

構造形式ごとに点検経路や点検手法、主要な部材の補修や交換の方法を検討し、一例として吊材の破断や交換時の冗長性を確保することで点検、維持管理に対する要求性能を満足する構造形式を選定しました。

点検や維持管理に必要な内空を確保した部材寸法や部材の配置、点検が困難な個所の防食仕様などについて、どの段階で検討し、どの段階で再チェックするかを事前に明確にして、維持管理に配慮した部材設計を行っています。

例えばアーチを構成する箱型のアーチリブは、構造上必要な断面形状を検討する一方で、完成後に点検員が歩行しながら部材の各部を容易に目視できることを実物大の断面図を作り、確認することで点検や維持管理が確実にそして容易に行えるよう配慮しました。

実物大の断面図は、アーチ部材の傾斜に合わせて踏み台を製作し、点検員の作業姿勢を撮影して等身大に合成しています。

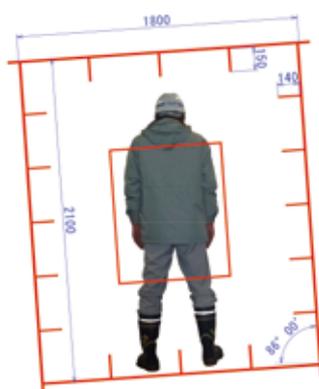


図-3 点検を考慮した部材形状の検討

### 架橋工事の進捗状況

架橋工事は2014年から進められており、2017年2月の時点で下部工のコンクリート工事が終了し、三ノ浜側と磯草側に海上ベントが設置されました。

上部工の側径間は大ブロックで工場製作されており、中央径間の鋼アーチ部分は気仙沼港の朝日埠頭において地組立が行われています。

上部工は海上運搬し、起重機船（3000 t級フローティングクレーン船）によって架設する計画です。



写真-3 朝日埠頭 中央径間の地組立て



写真-4 三ノ浜側 A1橋台 P1橋脚 海上ベント



写真-5 磯草側 海上ベント P2橋脚 A2橋台

### おわりに

大島大橋の工事は、架設後に水道管などのライフラインの添架工事を予定しており、平成30年度の完成を目指して進められています。鹿折地区と南気仙沼地区のまちづくり震災復興事業や気仙沼湾を横断する三陸沿岸道路の工事も行われており、これらの事業が完成すると社会基盤が整い、島民の生活向上、復興の加速、そして観光や地域振興への相乗効果も期待されます。

大島架橋事業を通じて実施した維持管理設計の手法を今後の構造物の計画や設計に取り入れていきたいと考えます。

## 女性技術者の声

八千代エンジニアリング株式会社 東北支店 反町 悠子

### 1. はじめに

入社し5年目の繁忙期を過ごしています。入社して以来、「女性だから」という偏見なく、1人の技術者として諸先輩方に育てていただきました。そのため、女性技術者というより、一人の技術者として（まだまだ半人前ですが…）、執筆いたします。

### 2. これまでの働き方

大学では水産学・沿岸生態系について学び、インフラ（当時は漠然と建設や土木と思っていました）に環境の視点から携わりたいと思い建設コンサルタント業界の門を叩きました。新卒で入社した会社では“海岸部”に所属し、藻場調査や人工リーフ設計などの業務を担当しましたが、土木知識ゼロの状態からのスタートだったため、わからないことも多く、ただがむしゃらに勉強し、少しずつ自分の知識等を増やしてきました。

### 3. 現在

7月から東北支店河川部に異動になりました。河川知識ゼロと1年目の時と同じような状況ですが、今は海岸分野で学んだ知識を基に少しずつ学んでいます。

一からのスタート!!と考えると少し大変に感じていたのですが、今まで行ったことのない現場に行けることが新鮮です。また、新しいことを始めるとき、一番つらいと感じるのは最初であって、乗り越えたときに何かを得られると考えて頑張っています。

### 4. これからの働き方

私事ですが、最近結婚をしました。仕事と家事の両立を目標に繁忙期に臨みましたが、いざ繁忙期がはじまると家のことはおろそかになってしまっています。

ワークライフバランスや水曜ノー残業デーといった言葉が最近では定着しつつあり、繁忙期以外であれば残業しない取り組みは多くなっているかと思いますが、まだまだ繁忙期はプライベートな時間が取りにくい状況です。また、今年改めて感じることは、「健康第一!!」です。技術者としての大事な要素として“技

術力”はもちろん、“提案力”、“説明力”“管理能力”など大切な要素がたくさんある中でも、繁忙期を乗り切る力、急な対応に応える力として体を壊さない体力は重要だと改めて感じています。

災害発生時には緊急的に対応するなど、社会へ大きくかかわっている以上、非常事態の働き方はつきものだと思いますが、毎年年度末は深夜残業・休日出勤が続くのは、プライベートへの負担が大きいと感じます。発注時期や納期は発注者が関係するため、改革には時間を要すると思いますが、社会インフラを支える仕事に携わっている誇りを持って、技術者全員が働きやすい業界でありつづけられればと感じます。



《海の根性を鍛える カッター》

大学でこの競技に出会い、体力と根性が鍛えられました  
海上自衛隊の訓練の一種になるほど過酷な競技です



《芋煮会を初体験》

準備に動しむ若手とそれを待つ課長がいます（左下）



《砂防堰堤の前で》

今までの現場といえば船上か砂浜の上だったので、山中に行けたのは新鮮でした。

## 地元で生きる若手技術者として

三協コンサルタント株式会社 酒 井 里佳子

### 1. はじめに

入社してから今年で3年目になります。まだ経験や知識が浅く、不安も多くありますが、仕事にはやりがいを感じています。学生時代、都市計画やまちづくりを学んでいくうちに地元でまちづくりに関わりたいと思うようになり、この道を選びました。私は調査計画課に所属し、学んできたことを活かせる計画の仕事や、まったくはじめての分野の仕事まで、幅広く関わらせてもらっています。苦手なことにも挑戦しながら、日々成長していきたいと思っています。

### 2. 仕事に対する意識の変化

まず私が経験したのは橋梁点検業務でした。一気に老朽化が進む今、とても重要な維持管理のひとつだと思います。しかし自分がヘルメット、トラチョッキ、安全帯を着用して橋を点検する姿は、学生の頃には想像もしていませんでした。橋の大きさや偉大さに対して、点検の繊細さ（人の目や手で行われていること）に大変驚きました。それと同時に、損傷の原因がわかる能力も必要であり、意識を持ち、経験を積み重ねていくことの大切さを学びました。

また、市民と直接触れ合う機会の少ない仕事ですが、アンケート調査では市民のまちづくりの意識や、事業に対してのポジティブな意見を知ることができ、モチベーションに繋がることがあります。しかし、中には重くネガティブな意見もあり、あふれ出てくる思いを紙に書きとめながら取り組むこともありました。学生時代には味わうことのできなかつた現実に、恐怖や危機感を覚えました。それが実際の課題となり、また新たな仕事に繋がると思うのですが、「関心の無さ」にも問題がある気がしました。地元愛やまちづくりへの市民の意識を高めることも、間接的に私達の重要な役割なのではないか、と思うようになりました。もちろん、それにはまず自分自身の責任ある仕事への意識、行動が大事だと思います。目の前の業務に追われ、こなすだけにならず、この仕事が未来のどんな人々の生活に繋がるのかしっかり描き、想像することを忘れないようにしたいです。



【点検車を使った橋梁点検作業】

### 3. プライベートの充実

働き始めてから、効率のよい作業への取り組み方が少しずつ身につき、プライベートの時間の使い方も変わってきました。1年目は週末に友人と飲みに行くことで精一杯でしたが、最近は中学高校と部活動で取り組んでいたテニスを再開しました。同じ考えなのか、当時切磋琢磨していた仲間たちとの再会もあり、サークルを立ち上げ、練習・試合・打ち上げと充実した日々を送っています。汗を流すことだけでなく、喜怒哀楽を共有し仲間と励ましあいながら過ごす時間は、私にとって宝物であり、仕事の疲れを癒してくれます。



【テニス市民大会にて】

また、旅行も多くなりました。金銭的な変化もありますが、一番の理由はこだわりの変化だと思います。昔は未経験のものにはなかなか手が出せず、情報も自分から閉ざしていた部分がありました。しかし、社会人になり幅広い年齢や職業の方との交流が増え、情報やお誘いをいただくことも増えてきました。自分が聴かないジャンルの音楽やお笑い、映画、スポーツ、イベントなど、視野を広げて挑戦してみると、今まで知らなかった世界を知ることができます。それらのために一歩踏み出し、各地へ足を運び、観光をしていくというのが最近の旅行のパターンです。

遠出だけではありません。今シーズンはスノーモービルに挑戦します。地元のとあるログハウスのオーナーさんがレッスンしているもので、昨年の夏にバーベキューができる場所を探していた際にとっても近くにあることを知りました。早速行ってみると、そこは見覚えのある絶景。なんと、小学生の頃に総合学習で訪ねたところでした。更にその夜、「うたごえ喫茶」なるものが行われ、宿泊していたみんなでピアノを囲み、歌い明かすということがありました。あたたかく、居心地のよい素敵な空間でした。ご縁を感じ、それからお茶を飲みに行ったり、紅葉を見に行ったりしました。私と友人が音楽をしていたことを話すと快く場所を貸していただき、ピアノとフルートでセッションさせてもらったことも……。自然に囲まれ、いつ行っても四季折々の風景が楽しめます。なんといってもわくわくに協力してくれる唯一無二のオーナーさんが笑顔で迎えてくれます。こんな素敵な場所が地元にあることを今まで知らずにいました。私が知らないだけで、まだまだすばらしい魅力ある場所がたくさんあるのかもしれない。それに気づかされ、地元で遊ぶ楽しさも覚えました。縁やつながりを大切に、柔軟に過ごしていきたいものです。

今はむしろ学生時代よりもプライベートが充実しているような気がします。全て、ひとりでは見ることが



【地元ログハウスからの絶景】

できなかった世界であり、関わる人によって自分の人生を豊かにすることができるのだと感じます。出会いによって視野が広がり、感情も豊かになり、生活や環境のことを見つめることができます。それを何らかの形で、仕事にいい影響として繋げられたらと思います。

#### 4. おわりに

私は地元を愛しています。地元で、地域に貢献できる仕事をさせてもらっていることを誇りに思います。自分にできることは、地元でこの仕事をし続けること、そして地元でそれら構造物を使い続けることです。今ほとにかく地元で遊ぶことも大切だと思います。人間に対して私たちが関わっているものは壮大です。その課題を解決していくのには時間を要しますが、一瞬で変えられるものではないからこそ魅力を感じているのかもしれない。地元に残った人間として、果たすべきことがあるはず。「田舎には何もない」とか、「田舎だから無理だ」と思わず、思わず、仕事とプライベートを互いに活かし、地域の魅力を発見しながら仕事に取り組み生きていきたいと思っています。

## 若手の会の紹介

東北支部 総務部会 若手の会 委員長  
株式会社復建技術コンサルタント 山本 佳和

### 1. 若手の会の概要

若手の会は、東北地方や建コン業界の“これから”について若手技術者が議論を交わし、交流を深める場として、総務部会に所属する委員会として平成28年7月に設立された。

建設コンサルタンツ協会本部では、総務委員会のWGとして「業界展望を考える若手技術者の会（通称：本部若手の会）」を平成27年4月に発足させた。本部若手の会では、「若手技術者が業界の諸問題や将来像、改善行動について議論を交わし、魅力ある建設コンサルタント業界を実現するために行動する」ことを目的に、建コン業界の将来像について意識を共有し、既成概念にとらわれない大胆で柔軟な議論を交わしている。

また、各支部においても若手技術者が主体となった活動が展開されている。北陸支部、関東支部、九州支部、近畿支部では、若手技術者の交流や入職者増加を目的とした活動を実施していた。

そのような全国的な取り組みが進んでいる中、東北支部においては、若手技術者が主体となった組織が存在しなかった。東北地方では、人口減少に伴う技術者不足が全国平均よりも早いペースで進むと想定されている。東北地方の建コンの将来にとって、若手が主体となった全国的な業界活性化の取り組みから東北が取り残されることは、負の影響を与えかねないと考えた。

そのため、平成28年2月に支部長宛に若手主体の組織である“若手の会”の設立要望書を提出した。3月の役員会において承認、準備期間を経て、7月に設立され、第1回定例会を開催した。これまで計4回の定例会を開催している。

### 2. 委員会のメンバー

若手の会は、東北支部の広域コンサルタント、地域コンサルタントに属する18名のメンバーで構成されている。メンバーたちは、「業界の将来を自ら考え、行動したい」「業界の魅力を若手目線で自ら発信したい」という熱い思いを胸に秘めている。このメンバーの熱いを共有し、ひとつずつ行動し、実現させること

が若手の会のミッションである。

委員長	山本 佳和	(株)復建技術コンサルタント	
副委員長	石崎 覚史	大日本コンサルタント(株)	
幹事	富田 毅	(株)オリエンタルコンサルタンツ	
幹事	佐々木 香菜子	(株)三協技術	
委員	安達 和也	新和設計(株)	
〃	井上 智史	(株)ウスマ地域総研	
〃	岡田 清宏	パシフィックコンサルタンツ(株)	
〃	工藤 清和	(株)キタコン	
〃	紺野 健一	(株)菊池技研コンサルタント	
〃	酒井 里佳子	三協コンサルタント(株)	調査WGリーダー
〃	鈴木 天	(株)福山コンサルタント	
〃	高波 竜一	日本工営(株)	
〃	土屋 和弘	(株)長大	
〃	中川 裕一	(株)東コンサルタント	イメージWGリーダー
〃	中村 麻里亜	いであ(株)	
〃	畠山 和真	(株)昭和土木設計	
〃	矢田谷 健一	(株)建設技術研究所	
〃	吉田 裕哉	日栄地質測量設計(株)	交流WGリーダー

平成29年1月現在

### 3. 活動目的

若手の会は、以下を目的として活動している。

- ・業界及び企業経営に対する大局観を持ちつつも、若手ならではの大胆で柔軟な議論を交わす。
- ・若手技術者同士が本音で語り合い、将来にわたって良質な関係を保つことで業界を活性化させ、リーダーとして活躍する人材となれるよう、若い技術者同士が切磋琢磨できる会とする。
- ・本部若手の会と連携し、業界活性の一大ムーブメントを起こす。

### 4. 平成28年度の活動状況

#### ①第1回定例会（平成28年7月15日）

- ・本部若手の会、各支部よりゲストメンバーに参加いただき、各会の活動状況について紹介していただいた。

本部：伊藤 昌明 氏（オリエンタルコンサルタンツ）

関東：山本 浩樹 氏（八千代エンジニアリング）

北陸：竹内 聡 氏（開発技建）

近畿：佐川 厚志 氏（中央復建コンサルタンツ）

鈴木 直司 氏（ニュージェック）

## 若手の会の紹介



写真1 第1回定例会の様子

- ②第2回定例会（平成28年8月26日）
  - ・建コン業界の現状について情報共有
  - ・グループ討議（東北の建設業界の現状について）
- ③第3回定例会（平成28年10月14日）
  - ・WG設置 ①交流会WG ②イメージWG ③調査WG
  - ・復建技術の若手社員との交流会  
グループ討議（今の仕事や働き方について）



写真2 復建若手社員との交流会

- ④第4回定例会（平成28年11月25日）
  - ・次年度以降、各WGで把握すべき次項や調査方法について討議

- ⑤大学生との交流会（平成28年12月8日）
  - ・土木学会東北支部の「若手土木技術者交流サロン」に建設コンサルタンツ協会の代表として参加し、土木を志す大学生と意見交換を実施
  - ・“建コンの技術者としての役割とエピソード”として、建コン業界の働き方や仕事内容を講演

### 5. 今後の活動

若手の会は、東北に働く若手技術者として、「東北地方の建コン業界を魅力的なものとするため」に以下の活動を実施する。

#### ◆定例会議の開催

- ・業界内外の情報共有や活動内容の決定のため、定例会議を年6回実施する
- ・各地の若手技術者との交流を図るため、仙台以外で定例会を開催する回を設ける

#### ◆ワーキンググループ活動

##### <交流会WG>

- ・若手技術者、学生、異業種交流会等の企画・運営

##### <イメージWG>

- ・建コン業界の認知度向上、イメージアップを目的としたSNS整備や大学・高専訪問

##### <調査WG>

- ・東北の“これから”を議論するための基となる各種調査の実施

#### ◆各委員会との連携

- ・交流会や広報活動など、各委員会と連携して実施
- ・情報共有や若手技術者間の交流を図るため、本部若手の会と連携

### 6. おわりに（謝辞）

“若手の会”の設立にあたり趣旨に賛同いただきました遠藤支部長、支部役員の皆様、若手の会の運営にご協力いただいております事務局の皆様、関係者様に感謝いたします。

若手の会の活動を通し、東北の建コン業界の活性化に貢献していきたいと考えております。今後とも、ご指導、ご協力をお願いいたします。

## 私の趣味

株式会社ドーコン東北支店 三浦良信

ギターにフルートや尺八も持っているが、何ひとつものになっていない。趣味について何か書くことになり窮しているところです。若いころは日曜大工をよくやったりしていたが、今はテレビに読書と身体を動かさないことが多くなっている。サークルに参加して時々出かけているのは「みやぎ街道交流会」「宮城県地名研究会」での地域探訪や講演会、「砂防ボランティア」として砂防月間における砂防施設の点検、危険溪流の現地踏査、また、岩手・宮城内陸地震での土石流によって荒廃した地区を「みどり」に返そうとの植樹活動にも毎年参加している。

下手の横好きで歴史や古文書にも興味を持ち、時々多賀城の東北歴史博物館や仙台市博物館に足を運んでいる。

こふしんかたとめ  
「御普請方留」

仙台藩御普請方（担当役人）の心得が記述されているのが「御普請方留」です。幕末のころ、先人から伝えられてきた技術が失われることを危惧して編まれ、後輩たちのために残された技術書です。

原本は宮城県図書館に所蔵されていますが、私がこの本に会えたのは、「みやぎ街道交流会」の初代会長の高倉淳氏が、筆字の原本を活字に直して出版され、ある飲み会の席で手渡された時でした。高倉氏が曰く、「活字には直して見たが、土木の専門用語が多く理解できない部分も多い。三浦さんは土木屋と言うことなので読んでみて欲しい」と言うことでした。

漢字や変体仮名が並んでいて、活字になっても当時の私には読み下すことも理解することも出来ないものでした。初めの行動は古文書講読を習うことでした。幸い、東北歴史博物館には古文書講読講座が開かれていて、先ずは初級コースです。毎週土曜日の午後、3か月程通いました。初級での読み下し開始です。

内容は藩の技術者としての心得、計画、施工、材料、歩係り、人足の招集、清算に至る多岐にわたるものです。ごく一部を紹介します。



しゅぎょうたんれんこれなくて  
“修行鍛錬無之は人力ヲ勞するのみにて・・・”

書き出しは川普請の大意から始まります。普請には、その工法に色々な手法があるが、“修行鍛錬無之てハ人力ヲ勞するのみにて功験こうけんすくなくはなはだしきはかえつ甚敷ハ却て夫かため害を生し候そうろうぎかずおおくあいまえそうろう義数多相見得候”と自己研鑽しなければ、人民の労力を無駄に費やし、しかも効果が少なく、却って害を為すものも数多く見受けられる。と役人としての心得を述べている。

じねんのすいり よくよくしごとく  
“自然之水利を能々自得し・・・”

必要に応じて、目的達成のために川を自由に改修するにしても“自然之水利を能々自得し水の心ことごとためを悉く様し知るにあらずしては縦令鍛錬の者たりというも誤り無きことなし”と、川の流れの自ずから備わった水利や水の性状について、よく知っていなければ、たとえ長年経験を積んだ者であっても間違いを起すこともあると戒めている。

さりながらそのみそのみ  
“乍去其身々々修行鍛錬も不足にて・・・”

しかしながら、我々各人は修行鍛錬も十分とは言えないところもあり、そのような身で“大普請之義好

候へば 民力のみ<sup>かえつ</sup>勞し 却て害に成る事多<sup>おおし</sup> 又川には  
 春夏<sup>これあるゆえ</sup>秋冬 水には不動有之<sup>ふどうこれありてんべん</sup> 転変す 人力は怠り有之<sup>これあるゆえ</sup> 故  
 引<sup>ひつづ</sup>続之手入手段も不相及ものに相見<sup>あひみえ</sup>得 古人水面を  
 広くし 土手堤を丈夫にし 水の過不足自由<sup>いたしそろう</sup>に致 候  
 様に云 伝置<sup>いつたえおき</sup> 候間 能々<sup>よくよく</sup>得失利害を工夫<sup>くふう</sup>勘弁<sup>かんべん</sup>すべき  
 ことなり”となり、未熟者の身で大事業を好んで進め  
 ては、賦役に出なければならぬ民が疲弊し、逆に害  
 になることが多い。川には春夏秋冬の季節変動があり、  
 水も出水・濁水等常に化する。また、人力にも限り  
 があり継続した手入れや対策工も期待できない様にも  
 思える。このようなことから、古人は、川幅を広くし  
 て堤防を丈夫に造り、水量の大小に自由に対応できる  
 ように計画しなさいと言いつづけているので、利害得失  
 をよくよく考え検討工夫しなさい、と言いつづけている。今見てい  
 る川の流れだけではなく、春夏秋冬の変化や濁水から  
 洪水に至る水量の変化を十分わきまえて取り組みなさ  
 いと諭されている。

“元之所へ御築立て被下度と愁訴す・・・”

ある時、大洪水があって堤防が破損したため、洪  
 水の流に配慮した新たな河道を立案し、現地説明を  
 行った。地主たちは、そのような役所の計画では、川  
 の手前にあった自分たちの耕作地が川向になってしま  
 い、川を渡らなないと耕作できなくなってしまうと“元  
 之所へ御築立て被下度と愁訴す”元の形状に復旧して  
 欲しいと懇願されてしまいます。役人も困り果て、上  
 役にも相談して改めて計画を練り直します。費用は当  
 初計画の2倍にも嵩むものですが、半ばは地主たち  
 の意見を反映し、半ばは藩の意見を通すものとなった。  
 “百姓共悉土地をおしみ候所にて愁訴なせ共、半  
 を聞済れし事なれば先納得して普請す”それでも百  
 姓達は土地を惜しんではいたが、半分は要望を聞き入  
 れてもらっているのです。納得して工事を進めることと  
 なる。

藩政時代は、お上の意向には絶対服従かと思ってい  
 ましたが、意外にも地元説明をし、住民の意見を聞いて物  
 事を進めていたことが分かる。

さて、竣工後20年も過ぎてから、当時の役人が件  
 の付近を通り、あの復旧個所のその後はどうなったか  
 と見渡すと、堤防は立派に出来ていた。しかし、堤内  
 地（堤防の町側）に沼の様になっている廃れ地が見ら

れた。あの当時、地主の意見に従って堤内地にしてし  
 まった土地であった。当初案のように堤外にすれば、  
 出水の度に砂や泥が運ばれてきて、立派な耕地に回復  
 していたはずが、堤内地にしてしまつては砂泥が堆積  
 しないため、沼地のままの土地になっている。

住民の意見を聞くのも大事だが、水理を知る役人が  
 計画の是非について住民をしっかりと諭すことが、より  
 大事であると反省している。

“市中御買上御用立候事ニ候処・・・”

仙台藩では寛政9年（1797年）以前は“釘錠之鉄  
 物”は仙台と米谷（登米市東和町米谷）の“御鍛冶  
 屋”が指定され、御普請向きに供給されていた。同10  
 年からは“御転法”施政方針が変わり、村鍛冶からの  
 市中買上も出来るようになる。市中買上に際しては、  
 上記両鍛冶屋に正規の値段を確かめ、それを上回ら  
 ないように調達することと注意される。また、金物は  
 “目方”（重さ）で取引されるが、村鍛冶は鍛え方が不  
 足で、太く作ってしまうため、同じ重量では藩指  
 定の御鍛冶屋の製品より本数が足りなくなって、予算  
 が嵩むと嘆いている。一本当たりの寸法・重さは正規  
 の規格“御本則”に則って取引するようにと伝えている。

この他、橋や潜穴（トンネル）についても面白いこ  
 とが沢山出てくる。ちなみに、橋は“公儀”（幕府）の  
 命令により土橋で架けることを原則とし、板橋は限定  
 され、しかも届出が必要だったようだ。いざと言う時、  
 板橋は早期に落とすことが可能であることから、戦略  
 的施設と見なされていたのだろう。

潜穴には“渡り金掘り召仕べからず”と、全国を渡  
 り歩くトンネル技能者を採用してはならない、と言う。  
 なぜなら、彼らは他所に仕事の予定が無い時には日銭  
 を稼ぐため、いたずらに日数をかけたり、故意に法線  
 を間違えることがあると注意している。

事業の進め方を見ると、藩政時代は意外に民主的  
 と言うか、住民の意見を取り入れて進めていたことが  
 分かり驚きでもあった。また、随所に「民の疾苦を除  
 」とあり、現代の「公共の福祉の向上」と同じ目的である。  
 古人の考えや悩みも現代に通じるものがあり、頷いた  
 り、愉快になったりしながら時々楽しんでいる。

## 最上川舟運の歴史の町と最上橋

株式会社長大 荒木孝広



楯山公園（大江氏の城跡）から望む新旧最上橋

山形駅を発ち列車は程なく郊外へ。サクランボ果樹園や遠く月山を望む田園風景が現れる。しばし車窓を楽しむ終点左沢駅に到着する。ここは歴史の町、大江町である。

本題の土木学会が選ぶ土木遺産「最上橋」を紹介するには、大江町の歴史を少しだけ語らねばならない。

江戸時代天下泰平の元禄期、物流として最上川舟運が完成し明治後半にはピークを迎える。その後明治16年、最上橋架橋等道路整備が進められ、大正11年には鉄道整備として左沢線が開業した。近代化の波に

よりこれまでの発展に寄与した舟運はその地位を陸上交通に譲ることになった。駆け足の説明だが、昭和に入り加速を増す近代化は最上橋を鉄筋コンクリートへと導くに至った。



農作物等運んだ小籠飼舟（大江町歴史民俗資料館所蔵）



最上川舟運の繁栄を今も残す原町通り

### 最上橋

形式：コンクリートアーチ橋 橋長 97.6m

竣工：1940年（昭和15年）

### 参考文献等

- ・「土木学会選奨土木遺産」土木学会
- ・大江町発行観光パンフレット

## 河川及び環境専門委員会合同現場見学会に参加して

株式会社 福山コンサルタント 東北支社 金野 絢香

### 1. はじめに

平成 28 年 11 月 2 日（水）に開催された、（一社）建設コンサルタンツ協会 東北支部主催の東北地方整備局・建設コンサルタンツ協会東北支部の合同現場見学会（河川・環境）に参加させていただいた。

見学場所はその年によって異なるとお聞きしたが、今回は阿武隈川支川荒川の治水の歴史と環境との関わりや阿武隈川河畔の整備状況を学ぶことを目的として、福島市周辺の以下箇所を視察した。

- ・荒川砂防施設（霞堤、地蔵原堰堤、大暗渠等）
- ・荒川被災箇所（日ノ倉橋）
- ・阿武隈川河畔（隅畔、鎌田大橋、梁川橋）

### 2. 見学内容の概要

#### (1) 荒川砂防施設・被災箇所

日本有数の急流河川である荒川は古くから水害が多発してきた歴史を有しており、様々な治水事業が行われてきた経緯を持つ。今回は江戸時代から現在に至るまでに造成されてきた砂防施設と、平成 10 年の洪水で堤防決壊が起こった日ノ倉橋を見学した。

##### ① 荒川砂防施設（霞堤、地蔵原堰堤、大暗渠等）

荒川の砂防施設として、荒川の中で最も歴史が古い治水施設である水防林・霞堤、大正に建造され荒川の土木記念碑的な施設となっている地蔵原堰堤、平成 19 年に竣工された環境配慮型の治水施設である大暗渠を見学した。写真は遊歩道から撮影した大暗渠であり、破線で囲った半円形の暗渠が洪水時の土砂の一時貯留と平常時の生物の往来パスとしての機能を持つ。



##### ② 荒川被災箇所（日ノ倉橋）

日ノ倉橋では、平成 10 年の洪水により堤防決壊が発生した箇所を視察した。水位の立ち上がりが高く、侵食開始から 30 分足らずで堤防決壊に至ったという。従来の河川水位に基づく水防団出動水位の設定を見直し、現在は雨量を基準とした巡視体制を

構築中との説明を受けた。

#### (2) 阿武隈川河畔（隅畔、鎌田大橋、梁川橋）

阿武隈川河畔では、水辺環境整備や河道整備の事例として隅畔と鎌田大橋周辺を、また堤防整備の現場として梁川橋を見学した。

##### ① 隅畔

隅畔は、平成 3 年の台風による護岸及び水制の破損を契機に福島城跡としての歴史文化を活かした水辺環境整備地として見学した。夜間の水位探知も実施しているとのこと。

##### ② 鎌田大橋

鎌田大橋では、河岸侵食等の河道変化の現状を見学し、課題解決のための対策工（水制工設置、砂洲に水路設置）効果のモニタリング等について説明を受けた。写真破線内は鎌田大橋付近の河川内に見られる河床の抉れ発生箇所。



##### ③ 梁川橋

梁川橋では、異常降雨への対応としての堤防の質的整備（ドレーン工による浸透対策工等）の現場を見学した。

### 3. おわりに

今回の現場見学会では、環境への配慮が一体となった治水（荒川）や、歴史文化を生かした水辺環境整備（隅畔）、侵食や河床低下等の河道整備課題発生箇所とその対策（鎌田地区）、堤防の質的整備事業の現場（梁川地区）について学ぶことができた。

河川・環境合同見学会ということで、治水だけでなく環境保全（河川を遮断せず魚等の生物往来に配慮）にも配慮された大暗渠が印象深かった。また治水・環境保全の他に各種イベントの開催地としても活用される等、理想的な治水施設であるように思う。一方で、治水機能と環境保全機能を両立させるためには何を目標せばよいかの疑問が残った。その場所と事情によって目標型は様々だと思うが、どちらかが立ってどちらかが立たず、または折衷した結果どちらも立たずといったことはないのだろうか。生物環境側の実態も含め、また荒川の砂防施設について知れたらと思う。

最後に、見学会を主催して頂いた建設コンサルタンツ協会、国土交通省の皆さまに感謝申し上げます。参加させて頂き、誠にありがとうございました。

## 河川・環境現場見学会に参加して

三井共同建設コンサルタント株式会社 小田川 舞

### 1. はじめに

私は、2016年11月2日に建設コンサルタンツ協会主催の河川・環境合同現場見学会に参加させていただきました。国土交通省職員の方々と同行し、以下の3箇所について見学しました。

- ①荒川砂防施設（霞堤、地蔵原堰堤、大暗渠堰堤）
- ②荒川被災箇所（日ノ倉橋）
- ③阿武隈川河畔（隈畔、鎌田大橋、梁川橋）

### 2. 見学会の感想

#### ①荒川砂防施設

荒川砂防施設見学では、荒川づくり協議会の斎藤様と本多様の協力のもと、土木学会選奨土木遺産を巡りながら、荒川流域の自然と歴史を学びました。当日は霞堤→水防林→地蔵原堰堤→大暗渠砂防堰堤→荒川資料室の順に案内して頂きました。

#### ・霞堤、水防林

林の中に散見していた霞堤は、断続的に反復して築堤することで急激な水圧を分散させる工法と聞き、江戸時代後期の先人たちの英知を感じられました。現代ではめったに見られない工法を見学することができて、貴重な経験になりました。

#### ・地蔵原堰堤、大暗渠砂防堰堤

少し歩いた先には土木遺産である地蔵原堰堤と大暗渠砂防堰堤がありました。二つとも迫力のある砂防堰堤でした。荒川の治水・砂防の要の施設を間近で体感でき、荒川が5年連続の水質日本一も自然環境に配慮した砂防施設や他の治水施設があるからこそ継続できるのだと思いました。



写真：地蔵原堰堤

#### ②荒川被災箇所

平成10年に発生した水害による日ノ倉橋の上流右岸決壊箇所を見学しました。急流河川である荒川は災害時の水位上昇が早いため、氾濫注意水位から水防団による巡視を開始しても手遅れになると知り、改めて自然災害の恐ろしさを感じました。

#### ③阿武隈川河畔

阿武隈川では、「隈畔」、鎌田地区の洗掘・水衝部対策、梁川橋付近の堤防質的整備・ドレーンについて説明して頂きました。「阿武隈川の河畔」を略した造語である



写真：隈畔

「隈畔」は文化を活かした環境

整備されていて環境づくりが素晴らしいと感じました。鎌田地区は二極化が問題になっており、現地を見てもその状況が把握できました。課題解決に向けて様々な対策法が検討されていると知りました。梁川橋付近では、今まで施工途中のドレーンを見たことなかったため、今回の見学会で間近で見学することができ、どのように施工されるかがイメージしやすくなりました。今後の設計業務に活かしていきたいと思います。

### 3. おわりに

現場見学会後には、参加者同士の懇親会も開催されました。普段は同業者の方や他分野の方々と接する機会が少ないため、とても貴重な経験となりました。そして、今回の懇親会では女性技術者同士の交流ができたことが私にとって一番の励みになりました。

この経験をもとに、今後の業務に少しでも活かしていきたいと考えています。

最後に文面上ではありますが、現場見学会を主催して頂いた建設コンサルタンツ協会の皆様及び国土交通省の職員の皆様に深く感謝申し上げます。

# 平成28年度 構造専門委員会・道路専門委員会合同『現場見学会』に参加して

株式会社エイト日本技術開発 郡山 義章

平成28年11月16日に開催された、建設コンサルタント協会東北支部主催の現場見学会に参加した。

まず、栗原市の萩沢前1号本線橋の杭基礎工事を見学した。

ここでは、基礎工の形式として最終打撃方式が採用されており、周辺への音の影響が懸念されたが、現場周辺は田畑の広がる平地であり、民家が非常に少ない場所であった。

現場では、杭の打込みを間近で見ることができた。杭は一定の間隔で打込まれていたが、沈下量が徐々に減少していることが見て取れ、地中深くなるにつれて、土質が硬くなっていることを確認できた。

また、打込み時の打撃音と振動は予想以上に大きく、杭基礎の工法は、施工場所周辺の環境を確認し、よく検討した上で決定すべきであると感じた。



写真1 杭の打込み時

続いて、名取市の飯塚大橋の上部工工事を見学した。ここでは、ポストテンション方式が採用されており、



写真2 飯塚大橋上部工の様子

見学時は主桁が既に架設されていたが、間詰めコンクリートは打設前の状態であった。そのため、桁上から横締めケーブルや桁の間詰め前の状況等、普段見ることのできない橋梁の細部を確認することができた。また、現場では桁連結部の鉄筋組立作業が行われていた。

今回の見学会を通して、実際に施工現場を見ることにより、構造物のスケール感を知り、設計をする上で現場での動きや課題を把握することができたため、施工の事を踏まえた良い提案を行うことができるようになったと感じた。施工途中の構造物に触れることができた今回の現場見学会では、貴重な体験をさせていただくことができ今後の設計の参考となった。

最後に、此度現場にて説明していただいた方々、現場見学会を企画していただいた建設コンサルタント協会東北支部の皆様には厚くお礼申し上げます。

## 構造専門委員会・道路専門委員会合同「現場見学会」に参加して

新日本技研株式会社 西田 尚人

### 1. はじめに

平成28年11月16日(水)、建設コンサルタンツ協会東北支部主催の現場見学会に参加した。私は入社3年目になるが、この現場見学会には毎年参加している。普段の業務では、コンサルタントの方々と交流する機会は少ないため、懇親会も含め毎回楽しみにしている。

現場は、栗原市に位置する「萩沢前1号本線橋」と名取市に位置する「飯塚大橋」の2橋であり、仙台駅からバスで各現場へと移動した。

### 2. 萩沢前1号本線橋 基礎工工事

萩沢前1号本線橋では基礎工工事を見学した。本橋は橋長22.4mのPC単純プレテンションT桁橋であり、基礎形式は中掘り鋼管杭・最終打撃形式である。現場に到着した時点で下杭は施工済みであり、上杭の最終打撃を実際に見ることができた。クローラークレーンにより上杭と下杭を接続し、最終打撃は油圧ハンマにより行われるが、打撃時にはかなりの騒音が生じていた。打撃は2秒に1回程度行われており、1本の施工に15分程度を要した。実際に現場で見学して、周辺に住宅などがある場合には採用しづらい工法であると感じた。



最終打撃状況（萩沢前1号本線橋）

### 3. 飯塚大橋 上部工工事

飯塚大橋は、橋長70.2mの2径間連結ポストテンション方式単純T桁橋である。主桁は架設桁を用いて運搬し、門構により架設する。当日は、主桁が全て架設された状態であり、床版上を歩いて見学した。

主要な作業は行われていなかったが、全体的なスケール感や配筋状況など、普段は図面で確認しているものを現場で見ることができた。



現場見学状況（飯塚大橋）

### 4. おわりに

実際に現場を見ると、図面から想像したよりも全てが大きく感じた。設計業務を進めていく上で、現場の状況を適切にイメージして設計することが重要であると感じた。今後もこのような機会があれば積極的に参加し、施工しやすい設計を行うよう勉強したい。

最後に、今回の現場見学会を企画して下さった建設コンサルタンツ協会・東北支部の方々、現場で説明して下さった方々に心より感謝申し上げます。

## 福島の復興とともに

株式会社 新和調査設計 代表取締役 飯澤 久

弊社は、昭和53年、株式会社 新和調査設計事務所の郡山支店として福島県に設立、平成13年に株式会社新和調査設計として独立、現在に至っています。

弊社は、設立以来一貫して地元福島への貢献を目的に、総合建設コンサルタントとして主に設計、地質調査、測量に関する業種を国、県及び自治体からの業務として受注し実施しております。

平成23年に発生した東日本大震災では、当社も甚大なる被害を受ける中、関係機関と連携をはかり、被害状況の調査を行う事から始まり、災害査定等を中心に道路、河川、切土・盛土法面、橋梁等の復旧のための調査・測量・設計を実施しました。特に“造成宅地滑動崩落緊急対策事業”として造成盛土に被害が発生し、盛土上の建物や近接する市道への影響を防止するため、早急な対策事業の一部として測量・調査・設計を実施しております。この事業は既存の構造物と対策施設を一体化することにより工期の短縮を図っている点が評価され“一般社団法人 全日本建設技術協会全建賞”を受賞しております。(写真：対策後)



現在は、福島第1原発による放射線被害対策として、住宅や道路のモニタリング調査、除染作業の補助監督員業務、除染廃棄物の仮置場の造成設計などを行っています。さらに、被災した住民のための復興住宅建設のための造成設計などに携わっております。福島県の復興はまだ途上段階であり、今後とも会社をあげて取り組んで参りたいと思います。

弊社はまだ歴史も浅く、従業員も30名程度であり

ますが、設計、地質調査、測量と連携して取り組むこと、地元に着目することにより、会社独自の技術を提案することができ、国道事務所からは事務所表彰を、県からは優良土木建築委託業務表彰などを受賞し一定の評価を得ることができました。また、地域貢献として“地域清掃活動”“献血活動”“災害応援協定”など様々な活動を行っています。



建設コンサルタント業界を取り巻く変革（公共事業関連費の推移、建設生産システムの改革）を受け、当社でも中長期的な視野に立ち、様々な改革を行っていきたくと考えています。UAV（ドローン）によるオルソ画像の生成や3Dデータなどの取得によるi-Constructionとの連携、道路を通常走行しながらレーザスキャンを行うMMS（モバイルマッピングシステム）など用いた高精度の3次元位置情報の提供などの導入の検討を行っています。今後とも建設コンサルタント協会の一員として、様々な情報を取り入れ、さらなる発展をしていきたいと思っております。



### 株式会社新和調査設計

本社：福島県郡山市豊田町4番12号

TEL:024-934-5311 FAX:024-934-5316

URL:<http://www.shinwa-cs.com>

支店/営業所：福島・県南・会津・喜多方・田村

## 平成28年度 意見交換会について

建設コンサルタント協会の重要活動としております、発注者との意見交換会は、建設コンサルタント協会本部の要望と提案事項に支部会員からのアンケート調査、発注者の実態を把握・調査し、これらを幹事会に諮り議題を決め、平成28年9月28日の岩手県県土整備部から始まり、11月24日の福島県土木部で終了しました。

### 岩手県県土整備部との意見交換会

日時 平成28年9月28日

出席者 (県) 八重樫 河川港湾担当技監他 6名  
(協会) 遠藤支部長他幹事・会員 15名



八重樫 河川港湾担当技監のご挨拶

#### 議題 (協会)

1. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
2. 技術力重視による選定
3. 品質の確保・向上
4. その他

### 秋田県建設部との意見交換会

日時 平成28年10月12日

出席者 (県) 前佛 建設部長他 6名  
(協会) 遠藤支部長他幹事・会員 18名



前佛 建設部長のご挨拶

#### 議題 (協会)

1. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
2. 技術力による選定
3. 品質の確保・向上
4. 建設コンサルタントの活用実態について
5. その他

### 山形県県土整備部との意見交換会

日時 平成28年10月25日

出席者 (県) 上坂 県土整備部長他 13名  
(協会) 遠藤支部長他幹事・会員 25名



上坂 県土整備部長のご挨拶

#### 議題 (協会)

1. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
2. 技術力による選定
3. 品質の確保・向上
4. その他

### 青森県県土整備部との意見交換会

日時 平成28年10月31日

出席者 (県) 鈴木 県土整備部長他 11名  
(協会) 遠藤支部長他幹事・会員 19名



鈴木 県土整備部長のご挨拶

#### 議題 (協会)

1. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
2. 技術力による選定
3. 品質の確保・向上
4. その他

## 支部活動報告

### 福島県土木部との意見交換会

日 時 平成 28 年 11 月 24 日

出席者 (県) 大河原 土木部長他 9 名  
(協会) 遠藤支部長他幹事・会員 22 名



大河原 土木部長のご挨拶

#### 議 題 (協会)

1. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
2. 技術力による選定
3. 品質の確保・向上
4. その他

### 宮城県土木部との意見交換会 (3 団体合同)

(一社) 建設コンサルタンツ協会東北支部

(一社) 宮城県測量設計業協会

(一社) 全国地質調査業協会連合会東北地質調査業協会

日 時 平成 28 年 11 月 30 日

出席者 (県) 遠藤 土木部長他 4 名  
(協会) 遠藤支部長他 3 団体 39 名



遠藤 土木部長のご挨拶

#### 議 題 (協会)

1. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
2. 技術力による選定と発注の仕組みに関する  
要望と提案
3. インフラ維持管理
4. そ の 他

### 東北地方整備局との意見交換会

日 時 平成 29 年 2 月 7 日

出席者 (整備局) 渡邊 企画部長他 8 名  
(協 会) 遠藤支部長他幹事 20 名



渡邊 企画部長のご挨拶

#### 議 題 (協会)

1. 企業の経営環境向上と技術力向上のための適切な発注について
2. i-Construction の取り組みについて
3. 業務環境の改善、円滑な業務の執行への取り組みについて
4. 担い手確保のための取り組みについて

### 仙台市との意見交換会

日 時 平成 29 年 2 月 8 日

出席者 (仙台市) 鈴木 都市整備局長他 7 名  
(協 会) 遠藤支部長他幹事 17 名



鈴木 都市整備局長のご挨拶



遠藤 支部長のご挨拶

#### 議 題 (協会)

1. 魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
2. 技術力重視による選定
3. 品質の確保・向上
4. そ の 他

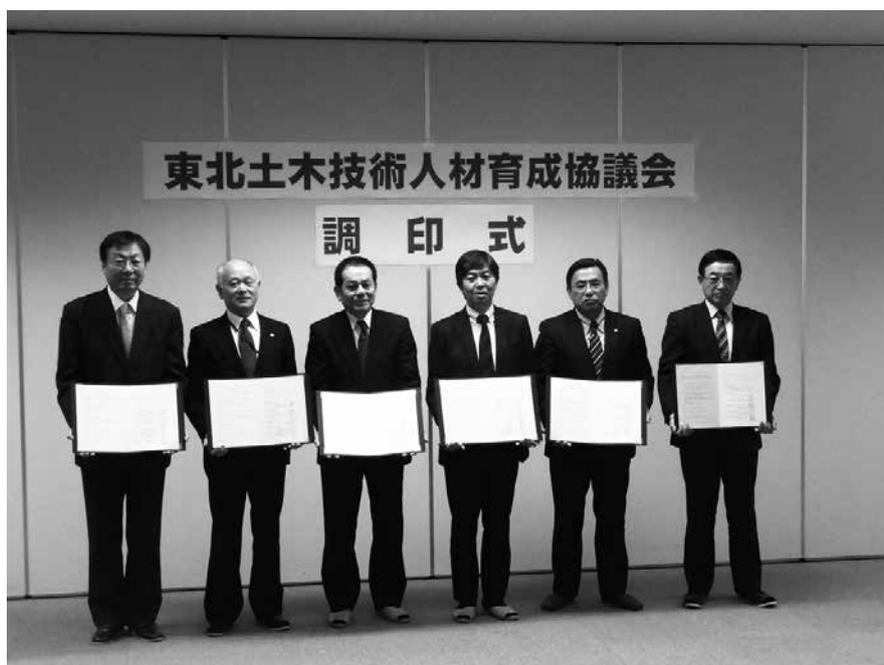
## 東北土木技術人材育成協議会 調印式

平成 29 年 3 月 1 日 東北地方整備局東北技術事務所 防災センター会議室において、東北土木技術人材育成協議会調印式が行われ、当協会からは遠藤支部長が出席しました。

参加団体は、国土交通省東北地方整備局、(一社)日本建設業連合会東北支部、東北建設業協会連合会、(一社)建設コンサルタント協会東北支部、(一社)東北測量設計協会、(一社)日本建設機械施工協会東北支部で構成されております。

覚書の概要としては、

- ◆建設産業界と東北地方整備局が連携し、協議会を設立。
- ◆協議会は、建設産業界と東北地方整備局相互の技術者育成に向け、技術講習会の充実を図る。
- ◆協議会の課題解決のため、ワーキンググループを設置する。



# RCCM 資格試験

シビルコンサルティングマネージャー（RCCM）の役割は、技術管理者または技術士のもとに、設計業務共通仕様書（旧建設省）において規定している管理技術者・照査技術者として、業務に関する技術上の事項を処理し、または業務の照査の任にあたるものです。

RCCM資格制度は、建設コンサルタンツ協会が平成3年度に創設し26年になります。平成7年度に建設省は標準契約約款の制定と、これに伴う共通仕様書の全面改訂を行い、これより設計業務等の受注にあたっては、管理技術者と照査技術者は技術士又はRCCM資格保有者と規定されました。

平成28年度のRCCM資格試験は平成28年11月13日仙台会場(東北工業大学)で実施され、562名が受験され、196名が合格しました。

なお、平成29年度のRCCM資格試験は、平成29年11月12日の予定です。

## 平成28年度受験地別・部門別合格状況

試験日 平成28年11月13日

合格発表 平成29年3月1日

部門	東 京			大 阪			福 岡			那 覇			札 幌			名古屋			仙 台			広 島			高 松			合 計		
	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)			
1. 河川、砂防及び海岸	135	46	34.1	141	53	37.6	206	58	28.2	2	1	50.0	51	17	33.3	95	37	38.9	89	32	36.0	75	24	32.0	73	29	39.7	867	297	34.3
2. 港湾及び空港	39	15	38.5	13	4	30.8	36	12	33.3	7	2	28.6	5	2	40.0	9	2	22.2	9	5	55.6	10	3	20.0	7	0	0.0	135	45	33.3
3. 電力土木	8	3	37.5	3	1	33.3	6	2	33.3	0	0	0.0	1	0	0.0	2	0	0.0	1	0	0.0	3	2	20.0	3	2	66.7	27	10	37.0
4. 道 路	298	72	24.2	167	41	24.6	259	83	32.0	50	13	26.0	110	34	30.9	162	37	22.8	127	25	19.7	70	19	20.0	101	32	31.7	1344	356	26.5
5. 鉄 道	6	3	50.0	2	0	0.0	5	4	80.0	0	0	0.0	1	1	100.0	2	0	0.0	1	0	0.0	0	0	0.0	1	1	100.0	18	9	50.0
6. 上水道及び工業用水道	55	12	21.8	61	23	37.7	44	14	31.8	16	1	6.3	10	5	50.0	27	12	44.4	20	10	50.0	14	6	42.9	30	5	16.7	277	88	31.8
7. 下水道	84	27	32.1	39	13	33.3	43	18	41.9	15	5	33.3	5	4	80.0	29	8	27.6	23	8	34.8	16	2	12.5	27	10	37.0	281	95	33.8
8. 農業土木	36	19	52.8	14	9	64.3	72	36	50.0	12	1	8.3	24	7	29.2	33	16	48.5	29	8	27.6	15	4	26.7	13	3	23.1	248	103	41.5
9. 森林土木	26	10	38.5	14	5	35.7	18	8	44.4	1	0	0.0	5	2	40.0	18	5	27.8	4	0	0.0	8	4	50.0	4	2	50.0	98	36	36.7
10. 造 園	20	6	30.0	9	2	22.2	5	4	80.0	1	0	0.0	3	0	0.0	9	3	33.3	4	2	50.0	2	2	0.0	1	1	0.0	54	20	37.0
11. 都市計画及び地方計画	63	20	31.7	45	16	35.6	31	15	48.4	9	1	11.1	4	1	25.0	36	16	44.4	27	16	59.3	12	6	50.0	11	8	72.7	238	99	41.6
12. 地 質	29	12	41.4	20	6	30.0	33	17	51.5	2	1	50.0	3	0	0.0	15	3	20.0	16	9	56.3	13	6	46.2	9	6	66.7	140	60	42.9
13. 土質及び基礎	67	24	35.8	52	19	36.5	103	27	26.2	19	7	36.8	27	8	13.2	53	18	34.0	55	22	40.0	31	13	41.9	40	16	40.0	447	154	34.5
14. 鋼構造及びコンクリート	199	89	44.7	146	55	37.7	150	68	45.3	10	3	30.0	85	36	42.4	120	49	40.8	82	32	39.0	60	25	41.7	63	25	39.7	915	382	41.7
15. トンネル	27	13	48.1	12	10	83.3	26	11	42.3	0	0	0.0	5	2	40.0	20	10	50.0	7	3	42.9	10	6	60.0	3	1	33.3	110	56	50.9
16. 施工計画、施工設備及び積算	81	17	21.0	58	13	22.4	46	10	21.7	26	6	23.1	12	4	33.3	27	9	33.3	33	7	21.2	11	3	27.3	15	5	33.3	309	74	23.9
17. 建設環境	51	23	45.1	33	11	33.3	22	10	45.5	9	5	55.6	17	7	41.2	13	8	61.5	13	6	46.2	9	5	55.6	15	4	26.7	182	79	43.4
18. 機 械	11	4	36.4	6	2	33.3	3	1	33.3	0	0	0.0	1	1	0.0	7	6	85.7	0	0	0.0	2	2	0.0	1	1	0.0	31	17	54.8
19. 水産土木	6	5	83.3	3	3	100.0	6	4	66.7	2	0	0.0	11	4	36.4	0	0	0.0	8	6	75.0	1	1	100.0	1	0	0.0	38	23	60.5
20. 電気・電子	49	12	24.5	28	6	21.4	13	5	38.5	3	0	0.0	5	0	0.0	8	4	50.0	9	3	33.3	6	2	33.3	1	1	100.0	122	33	27.0
21. 廃棄物	6	4	66.7	4	1	25.0	1	0	0.0	0	0	0.0	0	0	0.0	2	0	0.0	2	2	100.0	0	0	0.0	2	2	0.0	17	9	52.9
22. 建設情報	33	12	36.4	7	3	42.9	6	2	33.3	0	0	0.0	8	4	50.0	6	4	66.7	3	0	0.0	2	1	50.0	2	0	0.0	67	26	38.8
合 計	139	448	33.7	877	296	33.8	1134	409	36.1	184	46	25.0	393	139	35.4	693	247	35.6	562	196	34.9	370	136	36.8	423	154	36.4	5,965	2,071	34.7

## 平成28年度 RCCM 登録更新講習会

登録更新講習会は「シビルコンサルティングマネージャー（RCCM）資格制度施行規程」の第12条（登録の有効期間及び登録の更新）により、登録有効期間は、合格証が交付された日から4年間で、登録更新をする者は、更新日から1年以内に登録更新講習会を受けなければならないことになっています。

平成28年度の登録更新講習会は、平成12、16、20、24年度の「RCCM資格試験」の合格者を主な対象者として、平成28年10月7日午前・午後に分かれて、仙台会場（メトロポリタンホテル仙台）で実施され、531名が受講されました。

なお、仙台会場での講習内容は下記のとおりです。

### 午前の部

- |                   |                      |       |
|-------------------|----------------------|-------|
| 1. 挨拶・講話          | (一社)建設コンサルタンツ協会 常任理事 | 遠藤 敏雄 |
| 2. 技術課題と最近の動向     | 東京大学 教授              | 清水 秀範 |
| 3. 建設コンサルタンの現状と課題 | 日経コンストラクション 編集長      | 野中 賢  |
| 4. 登録更新ガイド・修了証書交付 |                      |       |

### 午後の部

- |                   |                      |        |
|-------------------|----------------------|--------|
| 1. 挨拶・講話          | (一社)建設コンサルタンツ協会 常任理事 | 遠藤 敏雄  |
| 2. 技術課題と最近の動向     | 立命館大学 教授             | 土岐 憲三  |
| 3. 建設コンサルタンの現状と課題 | (公財)リバーフロント研究所 研究参与  | 竹村 公太郎 |
| 4. 登録更新ガイド・修了証書交付 |                      |        |

### 平成28年度 RCCM 登録更新講習会受講者数

会場名	申込者数	受験者数	受講率	実施月日		
札幌	午前	198	198	100.0%	10月13日	
	午後	245	245	100.0%		
仙台	午前	263	265	100.8%	10月7日	
	午後	269	266	98.9%		
東京	第一	午前	258	258	100.0%	10月5日
		午後	268	266	99.3%	
	第二	午前	252	249	98.8%	11月29日
		午後	262	262	100.0%	
	第三	午前	127	124	97.6%	12月9日
		午後	159	154	96.9%	
新潟	午前	113	113	100.0%	10月21日	
名古屋	午前	259	257	99.2%	12月5日	
	午後	260	255	98.1%		
大阪	第一	午前	266	266	100.0%	9月26日
		午後	288	288	100.0%	
	第二	午前	138	138	100.0%	10月18日
		午後	176	175	99.4%	
広島	午前	195	193	99.0%	12月7日	
	午後	265	261	98.5%		
高松	午前	181	180	99.4%	10月24日	
	午後	149	149	100.0%		
福岡	第一	午前	268	268	100.0%	9月28日
		午後	282	282	100.0%	
	第二	午前	130	129	99.2%	10月26日
		午後	153	152	99.3%	
沖縄	午前	195	190	97.4%	12月1日	
合計		5,619	5,583	99.4%		

## ～東日本大震災から6年～ 「風化させない・忘れない」シンポジウム

「風化させない・忘れない」シンポジウム実行委員会

・国土交通省東北地方整備局

・(一社)建設コンサルタンツ協会東北支部外5団体

2月18日(土)、東京・虎ノ門の日本消防会館(ニッショーホール)で「～東日本大震災から6年～『風化させない・忘れない』シンポジウム」を開催し、ほぼ満席となる約700名の参加をいただいた。

東日本大震災から6年、これまで被災各地の復旧・復興は着実に進展しています。一方、大震災の記憶は急速に風化しつつあることから、大震災の経験と教訓を風化させず、忘れることなく、首都直下地震や南海トラフ巨大地震など今後全国各地で想定される災害にどう活かしていくかを考えることを目的に、国土交通省東北地方整備局が主体となり、東北の国土交通省各機関、土木学会東北支部、日本建設業連合会東北支部、東北建設業協会連合会、建設コンサルタンツ協会東北支部、東北測量設計協会、東北地域づくり協会で実行委員会を組織し、多くの機関からの後援もいただき開催した。



会場の様子

冒頭、震災当時の東北地方整備局が所有している映像をご覧いただき、主催者挨拶をかねて東北地方整備局の川瀧局長から現場からの報告が行われた。

被災直後の啓開、地域支援、復旧の状況、現在までの道路、河川、港湾、まちづくり等の復興の状況を、当時の画像などを使い報告した。

つづいて、地震津波対策の第一人者である東北大学災害科学国際研究所長の今村文彦氏から「東日本大震災での教訓を繋ぐー忘却とのたたかいー」と題して基調講演をいただいた。

「6年前の巨大津波をスーパーコンピュータで解析した結果、津波で海底の土砂が削り取られたことで早さが増して被害の拡大につながった。」「大震災以降も多くの自然災害が発生しているが、被害が繰り返されているのは他地域の経験・教訓を自分事として受け止められていないことが要因。過去の歴史津波などを集めてストーリーや映像などで後世に伝承することが記憶の忘却を防ぐことにつながる。」などを提示いただいた。

パネルディスカッションは「東日本大震災を教訓とした防災・減災」をテーマに、被災地から村井宮城県知事と戸羽岩手県陸前高田市市長、南海トラフ地震対策に取り組まれている尾崎高知県知事、防災教育の第一人者である片田群馬大学広域首都圏防災研究センター長、女性、世界の視点からタレントの春香クリスティーンさんにパネリストとして参加いただいた。コーディネーターは被災地復興でご指導いただいている涌井東京都市大学特別教授にお願いし、アドバイザーとして森国土交通省技監に参加いただいた。



挨拶・現場からの報告(川瀧局長)



基調講演(今村文彦氏)

## 【尾崎知事】

震災対策は膨大で一つのシナリオにとらわれすぎてもいけない。県は市町村をバックアップしリードするが、我々の知見だけでは足りない。国が県をリードしてほしい。

## 【片田センター長】

何よりも逃げる意思を持つことが重要。被災体験に学び、災害に対する教訓が文化として定着するようにしていかなければならない。

## 【戸羽市長】

大震災が忘れられるのは、自分のこととして考えていないから。自分の命は自分で守るしかないという意識を共有してほしい。

## 【春香さん】

このくらいなら大丈夫、という慣れが怖い。2020年オリンピック・パラリンピックなど、多くの外国人が訪れている際に地震が発生した場合どうするかを考えておくべき。

## 【村井知事】

同じ災害がきても命だけは守る、守られるまちづくり、物流拠点などの重要施設は徹底的に守るということも重要な教訓。広域防災拠点など創造的な復興を進める。

## 【森技監】

大震災のときは道路だけでなく海、鉄路、飛行機をフル活用して物資を運んだ。これからもネットワーク整備にしっかり対応していきたい。

涌井特別教授は、「土木的な対応に加え、生態系や自然を活用しながら、防災、減災、そして災害を克服し次世代につなげる『克災』に取り組むことが重要」と提言し、パネルディスカッションを締めくくった。

会場では、東北支部外実行委員会構成団体の震災後の取り組みを紹介したパネル展も同時開催した。

土曜日のシンポジウムであったが、会場はほぼ満員となり、東北の教訓を首都圏・全国に発信することができた。東日本大震災を経験した整備局として、これからは「風化させない・忘れない」取り組みを全国で展開していきたい。

当日ご参加頂いた200名を超える協会会員の皆様に、感謝申し上げます。



パネリスト



コーディネーターとアドバイザー



東日本大震災パネル展（2階ロビー）

## 講演会報告

平成 28 年度の講演会は「復旧からの復興・創生へ」～東北の魅力を生かして～をテーマとして、去る平成 28 年 11 月 11 日（金）に、ホテル法華クラブ仙台で開催しました。

講演会に先立ち、建設コンサルタンツ協会東北支部 遠藤敏雄支部長より、主催者代表として講演会のご挨拶を申し上げます。次に、来賓挨拶として国土交通省東北地方整備局企画部長の渡邊泰也様よりご挨拶を頂戴いたしました。

講演会は、始めに「観光による東北の魅力づくりと地域の復興」と題しまして、宮原育子様（宮城学院女子大学現代ビジネス学部長）より東北の観光に関わる現状と、外国人宿泊観光の今後の可能性、ジオパークのような観光と交流を地域全体で築き上げる必要性、そして何よりも、震災を経験して得た東北の可能性を東北の観光のコンテンツにして、地域住民と一体になって震災を伝え続けることの重要性についてご講演頂きました。

引き続きまして、「地域主体の持続可能な地域づくり－社会的共通資本の理念と実践－」と題しまして、風見正三様（宮城大学事業構想学部長）より、震災を経験した東北だからこそその震災復興型ソーシャルコミュニティビジネスや、地域づくりについて大崎市や東松島の事例を交えて、社会的共通資本の理念を踏まえた地域づくりが必要であることをご講演頂きました。

今回も、「東北の創生」をキーワードに時宜を得た有用な情報が提供出来たのではと考えております。今後もこのような講演会を開催してまいりますので、会員皆様の多数の参加をお願い申し上げます。



建設コンサルタンツ協会東北支部 遠藤敏雄支部長



国土交通省東北地方整備局 渡邊泰也企画部長様



宮城学院女子大学現代ビジネス学部長 宮原育子様



宮城大学事業構想学部長 風見正三様

## [支部だより]

10月4日(火)

技術部会 (構造専門委員会)

場 所/支部会議室

10月4日(火)~5日(水)

東北地方整備局「道路行政(計画)研修」へ講師派遣

講 師/野田 英治 (八千代E株)

及川 宏之 (株ドーコン)

大塚 宣昭 (株福山C)

10月6日(木)

情報部会

場 所/支部会議室

議 題/(1)ICT セミナー準備等について

(2)ガイド東北について

(3)そ の 他

10月7日(金)

RCCM登録更新講習会

場 所/ホテルメトロポリタン仙台

主 催 本 部 受講者 531 名

10月12日(水)

秋田県との意見交換会

場 所/アキタパークホテル

秋田県 前佛 建設部長 他 6名

協 会 遠藤支部長 他 18名

議 題/建コンからの提案議題

(1)魅力ある建設コンサルタントに向けた担い  
手の育成・確保のための環境整備

(2)技術力による選定

(3)品質の確保・向上

(4)建設コンサルタントの活用実態について

(5)そ の 他

10月12日(水)

設計施工マニュアル(案)[道路橋編]改訂概要説明会

場 所/ハーネル仙台

主 催 技術部会 (構造専門委員会) 受講者 103 名

10月13日(木)

品質セミナー「エラー防止」

場 所/ホテル法華クラブ仙台

主 催 本 部 受講者 125 名

10月14日(金)

経営分析説明会

場 所/パレス宮城野

主 催 本 部 受講者 35 名

10月14日(金)

若手の会

場 所/支部会議室

10月14日(金)

宮城県建設センター「資格取得研修(RCCM)」

へ講師派遣

講 師/佐藤 泰法 (株復建技術C)

10月18日(火)~20日(木)

岩手県土木技術専門研修「土木構造物実習・道路・  
河川計画」へ講師派遣

講 師/岡田 篤 (大日本C株)

木村 重喜 (株オリエンタルC)

開米 浩久 (株復建技術C)

内田 浩勝 (株建設技術研究所)

10月19日(水)

宮城県土木部職員研修「軟弱地盤対策講座」

へ講師派遣

講 師/今村 隆広 (株復建技術C)

橋尾 宣弘 (株エイト日本技術開発)

山口 淳熙 (大日本C株)

梶原 保志 (株福山C)

正岡 裕之 (応用地質株)

10月20日(木)

山形県防災協定締結式

10月20日(木)

ICT普及専門委員会講習会

場 所/パレス宮城野

主 催 本 部 受講者 61 名

10月25日(火)

山形県との意見交換会

場 所／あこや会館

山形県 上坂 県土整備部長他 13名

協 会 遠藤支部長他 25名

議 題／建コンからの提案議題

- (1)魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
- (2)技術力による選定
- (3)品質の確保・向上
- (4)そ の 他

10月25日(火)～27日(木)

東北地方整備局「河川構造物（河川・ダム）研修」

へ講師派遣

講 師／謝 建明（応用地質株）

遠藤 伸二（株ニュージェック）

水谷 茂（三井共同建設C株）

竹岡 数司（いであ株）

梁田 信河（八千代E株）

松尾新二郎（日本工営株）

10月26日(水)

福島県土木部職員専門研修へ講師派遣

講 師／細谷 健介（新和設計株）

10月28日(金)

山形県県土整備部「建設マネジメント研修Ⅱ（応用編）」

へ講師派遣

講 師／伊藤 信生（株庄内測量設計舎）

10月31日(月)

青森県との意見交換会

場 所／アラスカ

青森県 鈴木 県土整備部長他 11名

協 会 遠藤支部長他 19名

議 題／建コンからの提案議題

- (1)魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
- (2)技術力による選定
- (3)品質の確保・向上
- (4)そ の 他

11月2日(水)

RCCM試験監督員説明会

場 所／(株)復建技術C 会議室

11月2日(水)

河川・環境専門委員会合同「現場見学会」

荒川（荒川資料室、地蔵原堰堤、大暗渠砂防堰堤）、阿武隈川等

主 催 技術部会（河川・環境専門委員会）

参加者 42名

11月7日(月)

技術部会（道路・構造専門委員会）

場 所／支部会議室

11月8日(火)～18日(金)

岩手県土木技術専門研修「一般構造物」へ講師派遣

講 師／菅蒲 幸男（応用地質株）

榊原 信夫（川崎地質株）

北原 一彦（株オリエンタルC）

船山 淳（パシフィックC株）

山部 哲（株建設技術研究所）

松尾 新二郎（日本工営株）

向江 正夫（株東京建設C）

11月9日(水)～10日(木)

福島県土木部職員専門研修へ講師派遣

講 師／石井 一人（パシフィックC株）

及川 宏之（株ドーコン）

松尾 和俊（日本工営株）

11月10日(木)

地盤防災専門委員会合同「技術職員研修会」

場 所／ハーネル仙台

主 催 技術部会（地盤・防災専門委員会）

受講者 35名

11月11日(金)

平成 28 年度講演会「復旧からの復興・創生へ」  
～東北の魅力を生かして～

場 所／ホテル法華クラブ仙台

講 演／「観光による東北の魅力づくりと地域の復興」  
宮城学院女子大学 現代ビジネス学部長

教授 宮原 育子 氏

「地域主体の持続可能な地域づくり

－社会的共通資本の理念と実践－」

宮城大学 事業構想学部長

教授 風見 正三 氏

蔵王町環境政策課ジオパーク推進室長

加藤 勝彦 氏

主 催 (一社) 建設コンサルタンツ協会東北支部

後 援 国土交通省東北地方整備局、河北新報社、  
日刊建設工業新聞社、日刊建設産業新聞社、  
日刊建設通信新聞社、建設新聞社

協 賛 公益社団法人土木学会東北支部、  
公益社団法人日本技術士会東北支部他

参加者 200 名

(一般、官公庁、他 120 名、建コン会員 80 名)

11月13日(日)

平成 28 年度 R C C M 資格試験

場 所／東北工業大学

10：00～16：45

主 催 (社) 建設コンサルタンツ協会

(受験者数 仙台会場 562 名)

11月14日(月)

福島県農林水産部農林土木技術研修へ講師派遣

講 師／山本 晃弘 (株) 総合技術 C)

11月16日(水)

構造・道路専門委員会合同「現場見学会」

みやぎ県北高速艦船道路 築館工区

道路構造物工事 (栗原市)

南貞山運河 飯塚大橋上部工工事 (名取市)

主 催 技術部会 (構造・道路専門委員会)

参加者 46 名

11月18日(金)

建コンボウリング大会

場 所／仙台プレイボウル

主 催 総務部会

参加者 32 名

11月22日(火)

独占禁止法研修会

場 所／建設産業会館

講 師／公益財団法人 公正取引協会

客員研究員 相馬 哲夫 氏

(一社) 建設コンサルタンツ協会東北支部、

(一社) 宮城県測量設計業協会、

(一社) 日本補償コンサルタント協会東北支部、

(一社) 全国上下水道コンサルタント協会東北支部、

(一社) 東北測量設計協会、

(一社) 東北地質調査業協会、6 団体の共催

出席者 244 名 (建コン会員 100 名)

11月24日(木)

福島県との意見交換会

場 所／ふくしま中町会館

福島県 大河原 土木部長他 9 名

協 会 遠藤支部長他 22 名

議 題／建コンからの提案議題

(1) 魅力ある建設コンサルタンツに向けた担い  
手の育成・確保のための環境整備

(2) 技術力による選定

(3) 品質の確保・向上

(4) その他 (自由討議)

11月24日(木)～12月9日(金)

技術士模擬面接

主 催 技術部会

11月25日(金)

若手の会

場 所／支部会議室

11月28日(月)

河川講習会

場 所／ハーネル仙台

主 催 技術部会 (河川専門委員会)

受講者 72 名

11月30日(水)

宮城県との意見交換会（3団体合同）

- （一社）建設コンサルタンツ協会東北支部
- （一社）宮城県測量設計業協会
- （一社）全国地質調査業協会連合会東北地質調査業協会

場 所／TKPガーデンシティ仙台勾当台

宮城県 遠藤 土木部長他 4名

協 会 遠藤支部長他 3団体 39名

議 題／建コンからの提案議題

- (1)魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
- (2)技術力重視による選定と発注の仕組み等の導入に関する要望と提案
- (3)インフラ維持管理
- (4)そ の 他

11月30日(水)

宮城県土木部職員研修「土木基礎研修」へ講師派遣

講 師／岡田 篤（大日本C株）

前田 修（中央C株）

12月5日(月)

技術部会（道路・構造専門委員会）

場 所／支部会議室

12月6日(火)

第6回役員会

場 所／パレス宮城野

- 議 題／(1)平成29年度事業計画及び予算(案)について  
 (2)宮城県防災指導員養成講習企業防災コースについて  
 (3)そ の 他

12月6日(火)

講演会「建設コンサルタントを巡る最近の動向」

場 所／パレス宮城野

講 師 本部 木谷 顧問 参加者 120名

12月6日(火)

支部忘年会

場 所／パレス宮城野

主 催 総務部会 出席者 150名

12月7日(水)

道路・構造専門委員会合同技術講習会

場 所／ハーネル仙台

主 催 技術部会 道路・構造専門委員会  
 受講者 110名

12月8日(木)～11日(日)

建コン東北支部「台湾ツアー」

主 催 （一社）建設コンサルタンツ協会東北支部  
 参加者 20名

12月14日(水)～15日(木)

ふくしま市町村支援機構「市町村建設事業担当

職員研修」へ講師派遣

講 師／石井 一人（パシフィックC株）

12月15日(木)

情報部会

場 所／支部会議室

- 議 題／(1)各講習会の実施報告  
 (2)来年度の講習会の日程について  
 (3)そ の 他

12月20日(火)

対外活動委員会

場 所／支部会議室

- 議 題／(1)平成28年度整備局との意見交換会について  
 (2)福島県設計変更ガイドラインのアンケート依頼  
 (3)そ の 他

1月18日(水)

広報委員会

場 所／支部会議室

- 議 題／(1)J C C A TOHOKU の編集について  
 (2)平成29年度講演会について  
 (3)そ の 他

1月18日(水)

宮城県土木部職員研修「橋梁講座」へ講師派遣

講 師／佐藤 宗孝（セントラルC株）

石井 一人（パシフィックC株）

1月31日(火)

第7回役員会

場 所／事務局会議室

- 議 題／(1)会員の入会について  
 (2)意見交換会について  
 (3)そ の 他

2月3日(金)

角田市平成28年度技術研修会「小規模現場に

おける施工体制」へ講師派遣

講 師／村田 嘉宏（アジア航測株）

2月7日(火)

平成28年度環境専門委員会セミナー

場 所／TKP ガーデンシティ PREMIUM 仙台東口

主 催 技術部会 環境専門委員会

受講者 63 名

2月7日(火)

東北地方整備局との意見交換会

場 所／合同庁舎 B 棟 12 階会議室

整備局 渡邊 企画部長 他 8 名

協 会 遠藤 支部長 他 20 名

議 題／建コンからの提案議題

- (1)企業の経営環境向上と技術力向上のための適切な発注について
- (2)i-Construction の取り組みについて
- (3)業務環境の改善、円滑な業務の執行への取り組みについて
- (4)担い手確保のための取り組みについて

2月8日(水)

仙台市との意見交換会

場 所／仙台市役所 会議室

仙台市 鈴木 都市整備局長 他 7 名

協 会 遠藤 支部長 他 16 名

議 題／建コンからの提案議題

- (1)魅力ある建設コンサルタントに向けた担い手の育成・確保のための環境整備
- (2)技術力重視による選定
- (3)品質の確保・向上
- (4)そ の 他

2月9日(木)

情報部会

場 所／支部会議室

議 題／(1)事業報告(案)、事業計画(案)について

- (2)講習会について
- (3)そ の 他

2月9日(木)～10日(金)

青森県建設技術センター「一般構造物研修会」

へ講師派遣

講 師／向江 正夫 (株東京建設 C)

2月14日(火)

宮城県防災指導員養成講習会

場 所／(株)復建技術 C 会議室

受講者 41 名

2月15日(水)

第15回 高校生「橋梁模型」作品発表会

場 所／せんだいメディアテーク

主 催 高校生「橋梁模型」作品発表会実行委員会

(当支部他5団体共催)

2月18日(土)

「風化させない・忘れない」シンポジウム

場 所／東京 日本消防会館 (ニッショーホール)

主 催 「風化させない・忘れない」シンポジウム

実行委員会 (当支部も実行委員)

参加者 700 名

2月21日(火)

宮城県土木部職員研修「海岸施設実務演習」

へ講師派遣

講 師／馬淵 幸雄 (パシフィック C(株))

岡田 清宏 (パシフィック C(株))

2月23日(木)

経営者委員会

場 所／ホテル法華クラブ仙台

議 題／(1)本部地域コンサルタント委員会の報告

(2)本部・支部意見交換会について

講話：「i-Construction の推進」

東北地方整備局 企画部 技術調整管理官

柴田 吉勝 氏

2月23日(木)

総務部会

場 所／日本工営(株)会議室

議 題／(1)平成28年度活動報告

(2)平成29年度活動計画

(3)平成29年度行事担当等

3月1日(水)

東北土木技術人材育成協議会調印式

東北地方整備局東北技術事務所防災センター会議室において、東北土木技術人材育成協議会調印式が行われ遠藤支部長が出席しました。

3月9日(水)

建コン本部と支部との意見交換会

場 所／パレス宮城野

本 部 長谷川会長 他 12 名

支 部 遠藤支部長 他 25 名

議 題／1. 平成29年度「要望と提案」(案)について

2. 平成29年度「白書」(第一次原稿)について

3. 支部からの提案

4. そ の 他

## [会員の動向]

### ◆ 新入会員の紹介

- 平成28年9月1日入会 キタイ設計株式会社 東北支社  
支社長 村里 勲  
〒980-0801 仙台市青葉区木町通2-6-53  
TEL 022-343-5416 FAX 022-343-5423
- 平成29年1月1日入会 株式会社 ふたば  
代表取締役 遠藤 秀文  
〒979-1111 福島県双葉郡富岡町大字小浜字中央592番地  
〒963-0115 福島県郡山市南2丁目76 (連絡先)  
TEL 024-954-3832 FAX 024-954-3835

### ◆ 会員の異動 (次の方が就任されました)

- 平成28年9月1日 中央コンサルタンツ(株) 仙台支店  
支店長 前田 修
- 平成28年10月1日 (株)オリエンタルコンサルタンツ 東北支店  
支店長 熊坂 徹也
- 平成28年10月1日 (株)長大 仙台支社  
支社長 小泉 勝則
- 平成28年10月1日 アジア航測(株) 仙台支店  
支店長 菅原 脩

### ◆ 住所変更

- 平成28年10月31日 (株)建設環境研究所 東北支社  
〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-3-10  
TEL 022-292-6012 (変更) FAX 022-292-6013 (変更)



一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 東北支部 会員名簿

会員4月1日現在 102社

会 社 名	事業所名	郵便番号・住所	電話番号
(株)アサノ大成基礎エンジニアリング	東北支社	〒981-3133 仙台市泉区泉中央2-25-6	022-343-8166
朝日航洋(株)	東北空情支社	〒981-3131 仙台市泉区七北田字古内1-1	022-771-2382
アジア航測(株)	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-4-28	022-216-3553
(株)アスコ大東	東北支店	〒980-6010 仙台市青葉区中央4-6-1	022-724-7530
(株)東コンサルタンツ	本社	〒970-8026 福島県いわき市平字正内町101	0246-23-8424
(株)アーバン設計	本社	〒963-0201 福島県郡山市大槻町字御前東46-26	024-961-7500
いであ(株)	東北支店	〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-1-11	022-263-6744
(株)ウエスコ	東北支店	〒981-1106 仙台市太白区柳生1-11-8	022-797-5271
(株)ウヌマ地域総研	本社	〒010-0965 秋田県秋田市八橋新川向13-19	018-863-5809
エイト技術(株)	本社	〒031-0072 青森県八戸市城下2-9-10	0178-47-2121
(株)エイト日本技術開発	東北支社	〒984-0074 仙台市若林区東七番丁161	022-712-3555
応用地質(株)	東北支社	〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町3-21-2	022-237-0471
(株)オオバ	東北支店	〒980-0802 仙台市青葉区二日町14-4	022-261-8861
(株)オリエンタルコンサルタンツ	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1	022-215-5522
開発虎ノ門コンサルタンツ(株)	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-5-24	022-292-5220
(株)片平エンジニアリング	仙台事務所	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-722-3130
川崎地質(株)	北日本支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡3-4-16	022-792-6330
(株)菊池技研コンサルタンツ	本社	〒022-0007 岩手県大船渡市赤崎町字石橋前6-8	0192-27-0835
基礎地盤コンサルタンツ(株)	東北支社	〒983-0842 仙台市宮城野区五輪2-9-23	022-291-4191
キタイ設計(株)	東北支社	〒980-0801 仙台市青葉区木町通2-6-53	022-343-5416
(株)キタコン	本社	〒036-8051 青森県弘前市大字宮川1-1-1	0172-34-1758
(株)キタツク	仙台事務所	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-1-37	022-265-1051
(株)橋梁コンサルタンツ	東北事務所	〒963-8024 福島県郡山市朝日1-28-14	024-953-3667
(株)協和コンサルタンツ	東北支社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-14	022-266-6073
(株)近代設計	東北支社	〒984-0074 仙台市若林区東七番丁161	022-217-6750
(株)建設環境研究所	東北支社	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-3-10	022-292-6012
(株)建設技術研究所	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-15-1	022-261-6861
(株)建設技術センター	仙台営業所	〒982-0262 仙台市青葉区西花苑2-15-23	022-302-1195
(株)コウキコンサルタンツ	本社	〒996-0902 福島県喜多方市松山町村松字小荒井道西405-10	0241-24-2701
(株)構研エンジニアリング	東北営業所	〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-1-53-203	022-344-6231
(株)郡山測量設計社	本社	〒963-8041 福島県郡山市富田町字十文字54-3	024-952-5200
(株)国際開発コンサルタンツ	仙台支店	〒980-0011 仙台市青葉区一番町1-5-25	022-225-6201
国際航業(株)	東北支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-45	022-299-2801
(株)コサカ技研	本社	〒039-1103 青森県八戸市大字長苗代字上碓田56-2	0178-27-3444
(株)コンテック東日本	本社	〒030-0122 青森県青森市大字野尻今田91-3	017-738-9346
(株)寒河江測量設計事務所	本社	〒991-0003 山形県寒河江市大字西根字長面153-1	0237-86-5520
(株)サト一技建	本社	〒984-0816 仙台市若林区河原町1-6-1	022-262-3535
(株)三協技術	本社	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-8-14	022-224-5503
三協コンサルタンツ(株)	本社	〒994-0062 山形県天童市長岡北1-2-1	023-655-5000
サンコーコンサルタンツ(株)	東北支店	〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-38	022-273-4448
(株)三和技術コンサルタンツ	本社	〒995-0015 山形県村山市楯岡二日町7-21	0237-55-3535
柴田工事調査(株)	本社	〒012-0801 秋田県湯沢市岩崎字南五条61-1	0183-73-7171
(株)庄内測量設計舎	本社	〒999-7781 山形県東田川郡庄内町余目字三人谷地69-9	0234-43-2459
昭和(株)	東北支社	〒980-0022 仙台市青葉区本町2-1-1	022-261-9052
(株)昭和土木設計	本社	〒020-0891 岩手県紫波郡矢巾町流通センター南4-1-23	019-638-6834
新日本技研(株)	仙台支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17	022-212-4870
新和設計(株)	本社	〒992-0021 山形県米沢市大字花沢880	0238-22-1170
(株)新和調査設計	本社	〒963-8016 福島県郡山市豊田町4-12	024-934-5311
ジェイアール東日本コンサルタンツ(株)	東北支店	〒983-0853 仙台市宮城野区東六番丁31-2	022-211-0872
セントラルコンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0822 仙台市青葉区立町27-21	022-264-1923
(株)創研コンサルタンツ	本社	〒010-0951 秋田県秋田市山王1-9-22	018-863-7121

会 社 名	事業所名	郵便番号・住所	電話番号
(株)総合技術コンサルタント	東北支店	〒980-0804 仙台市青葉区大町1-3-2	022-268-4191
創和技術(株)	本社	〒010-0951 秋田県秋田市山王6-20-7	018-863-4545
(株)高島テクノロジーセンター	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-2-3	022-792-8251
(株)田村測量設計事務所	本社	〒990-0023 山形県山形市松波4-12-3	023-642-6644
第一復建(株)	仙台事務所	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-722-3701
(株)ダイエツ	本社	〒965-0831 福島県会津若松市表町2-53	0242-26-1253
大日コンサルタント(株)	仙台事務所	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30	022-225-5626
大日本コンサルタント(株)	東北支社	〒980-0021 仙台市青葉区中央1-6-35	022-261-0404
(株)ダイヤコンサルタント	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-4-1	022-263-5121
大和工営(株)	本社	〒996-0053 山形県新庄市大字福田字福田山711-43	0233-22-2422
(株)地圏総合コンサルタント	仙台支店	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-8-13	022-261-6466
中央開発(株)	東北支店	〒984-0037 仙台市若林区蒲町字東50-2	022-766-9121
(株)中央技術コンサルタンツ	東北支店	〒981-3131 仙台市泉区中央2-16-12	022-375-6787
中央コンサルタンツ(株)	仙台支店	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-27	022-722-2541
中央復建コンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-3-7	022-267-1459
中電技術コンサルタント(株)	東北営業所	〒981-0014 仙台市青葉区本町1-13-22	022-397-8173
中部復建(株)	東北支社	〒980-0801 仙台市青葉区木町通2-5-18	022-274-8190
(株)長大	仙台支社	〒984-0051 仙台市若林区新寺1-2-26	022-781-8628
(株)千代田コンサルタント	仙台支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-3-8	022-214-6261
(株)テクノ長谷	本社	〒980-0824 仙台市青葉区支倉2-10	022-222-6457
(株)東京建設コンサルタント	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-10-17	022-222-8887
東京コンサルタンツ(株)	東北支店	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-20	022-265-3891
(株)東建工営	本社	〒981-1227 名取市杜せきのした1-2-7	022-383-9811
(株)トーチコンサルタント	東北事務所	〒980-0021 仙台市青葉区中央2-7-30	022-262-0243
(株)ドーコン	東北支店	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-25	022-225-2860
東邦技術(株)	本社	〒014-0041 秋田県大仙市大曲丸子町2-13	0187-62-3511
(株)東北開発コンサルタント	本社	〒980-0804 仙台市青葉区大町2-15-33	022-225-5661
(株)東北構造社	本社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-2-3	022-227-1877
日栄地質測量設計(株)	本社	〒970-8026 福島県いわき市平字作町1-3-2	0246-21-3111
(株)日水コン	東北支所	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-7-17	022-222-1101
日本工営(株)	仙台支店	〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-1-11	022-227-3525
(株)日本構造橋梁研究所	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-713-6657
(株)日本港湾コンサルタント	東北支社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-1-5	022-215-9051
日本振興(株)	東北支店	〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-3-10	022-291-3810
(株)ニュージェック	東北支店	〒981-0912 仙台市青葉区堤町1-1-2	022-301-7611
(株)ネクスコ・エンジニアリング東北	本社	〒980-0013 仙台市青葉区花京院2-1-65	022-713-7277
パシフィックコンサルタンツ(株)	東北支社	〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-9-1	022-302-3940
(株)パスコ	東北事業部	〒983-0864 仙台市宮城野区名掛丁205-1	022-299-9511
(株)東日本建設コンサルタント	本社	〒974-8261 福島県いわき市植田町林内26-5	0246-63-6063
(株)福田水文センター	東北営業所	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-6-10	022-224-1417
(株)福山コンサルタント	東北支社	〒980-0802 仙台市青葉区二日町13-17	022-262-0118
富士コンサルタンツ(株)	仙台支店	〒982-0013 仙台市太白区太子堂10-20	022-395-6216
(株)ふたば	本社	〒963-0115 福島県郡山市南2丁目76	024-954-3832
(株)双葉建設コンサルタント	本社	〒996-0002 山形県新庄市金沢字谷地田1399番11	0233-22-0891
(株)復建エンジニアリング	東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-3-10	022-267-2765
(株)復建技術コンサルタント	本社	〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-7-25	022-262-1234
復建調査設計(株)	東北支店	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-20	022-723-5830
三井共同建設コンサルタント(株)	東北支社	〒980-0021 仙台市青葉区中央4-10-3	022-225-0489
陸奥テックコンサルタント(株)	本社	〒963-8011 福島県郡山市若葉町17-18	024-922-2229
八千代エンジニアリング(株)	東北支店	〒980-0802 仙台市青葉区二日町1-23	022-261-8344
(株)横浜コンサルティングセンター	仙台支店	〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-3-7	022-262-1493

## 編集後記

本誌が会員の皆様が届く頃には2月、3月の繁忙期を乗り越えほっと一息ついていることでしょう。

2月24日より経済産業省が中心となりプレミアムフライデーが施行されました。プレミアムフライデーとは、毎月月末の金曜日を3時に退社し時間の創出を促すことで、生活スタイルの満足度を実感していく取組みです。建設コンサルタント各社でも賛同して実施した企業もありますが、浸透するまでにはまだまだ時間がかかると思います。建設コンサルタント業界は残業が多く、大変というイメージが未だにありますので、それを払拭するためにも業界全体で積極的に取り組む姿勢が必要と考えます。

幸いにも水曜日のノー残業デーは官民一体となり多くの企業が採用していることから、一般的な認知度も高くなってきており、実施率も高いのではないのでしょうか。本誌でも女性技術者、若手技術者の体験記をシリーズ化しているように、そういった取組みが浸透すれば、今後は若者や女性に魅力ある業界になっていくと確信しています。

今年も新材料・新技術を公開する「E E 東北'17」が開催されます。たくさんの来場者が押し寄せることを期待しましょう。

### 建設技術公開「E E 東北'17」

開催日時：平成29年6月7日（水）10：00～16：30

8日（木）9：30～16：00

開催場所：みやぎ産業交流センター 夢メッセみやぎ  
（宮城県仙台市宮城野区港3-1-7）

（平成29年3月 庄司 敏彦 記）

## JCCA TOHOKU Vol.55

発行 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会東北支部  
〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-6-11  
アーク仙台ビル  
TEL 022-263-6820

編集 広報委員長 松川 秀敏  
副委員長 菊池 透 副委員長 石塚 三雄  
広報委員 大友 正樹 広報委員 佐藤 雅樹  
〃 田子 洋一 〃 山田 勝  
〃 高橋 伸彰 〃 高橋 力  
〃 目々澤 英幸 〃 庄司 敏彦  
〃 海藤 剛 〃 武田 浩幸

事務局 新野 俊晴・小川 みゆき  
印刷 ハリウ コミュニケーションズ株式会社  
〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12  
TEL 022-288-5011



.....明日への風、東北から.....

#### ロゴのデザインについて

三本の流れは、東北から発進する新しい風と〔文化〕を象徴したものであり、その中の白い三角は東北独自の〔風土〕と〔歴史〕をイメージしたものである。